

Canon EOS 5^{QD}



使用説明書



日本語版

キヤノン製品のお買上げありがとうございます。

このカメラはプロカメラマンまたはこれからプロカメラマンを目指そうという方に十分満足してお使いいただけるように開発された AF 一眼レフカメラです。

この使用説明書をよくお読みになり十分にご理解の上お使いください。

主な特長

1. 世界初の視線入力 AF を搭載。5つの AF フレームを眼によって自由に選択。
2. 5つの測距点を持ちながら世界最高速レベルの AF スピードを達成。
3. 高速 1/8000秒、ストロボ同調速度 1/200秒の高性能シャッターを搭載。
4. 秒間 5コマの高速フィルム巻き上げと、サイレントメカニズムによる静粛フィルム送りを同時に実現。
5. 28mm 広角レンズ対応の多機能ズームストロボを搭載。

〔ご注意〕

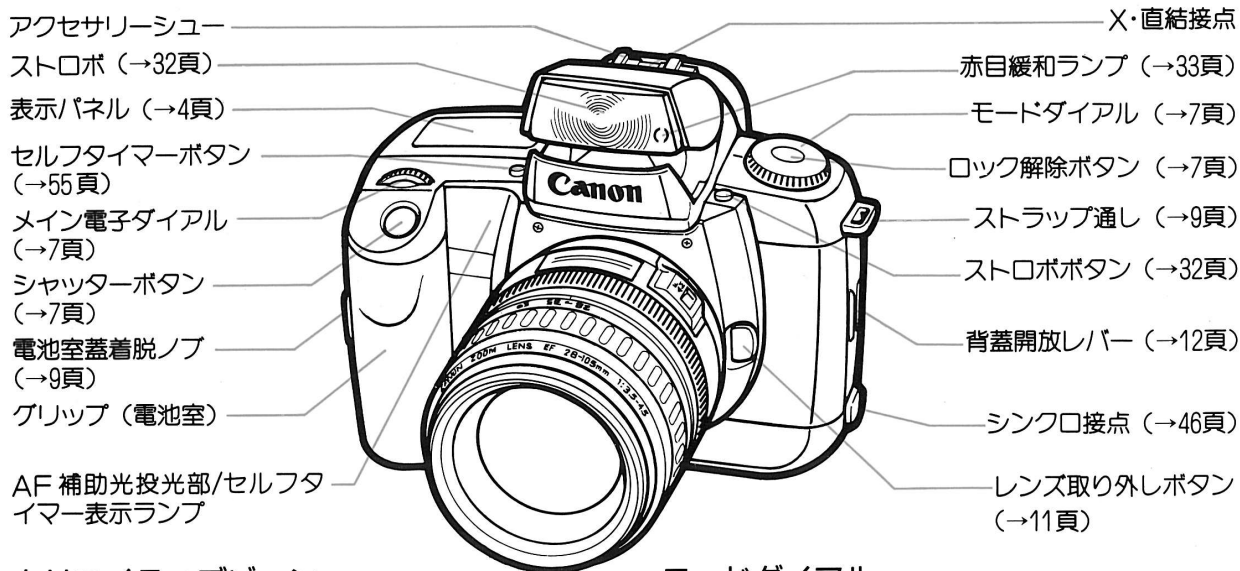
E O S は完全電子化マウントにより、専用のキヤノン E F レンズとの間でピント・露出調整の情報交換を行なっています。他社製のレンズを E O S に使用すると、カメラまたはレンズが正常機能を発揮しないことがありますのでご注意ください。また、他社製品との組み合わせ使用に起因する事故・故障につきましては保証いたしかねます。

表紙と裏表紙の各部の名称を図のように開いてご覧ください。



・本文中の (→■頁) は参照頁を示しています。

各部の名称

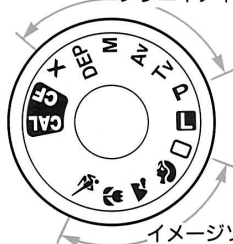


クリエイティブゾーン

- P: インテリジェントプログラム AE (→37頁)
- Tv: シャッター優先 AE (→39頁)
- Av: 絞り優先 AE (→41頁)
- M: マニュアル露出 (→43頁)
- DEP: 深度優先 AE (→44頁)
- X: シンク口撮影 (→46頁)
- CF: カスタム機能 (→58頁)
- CAL: キャリブレーション (→15頁)

モードダイヤル

クリエイティブゾーン



イメージゾーン

イメージゾーン

- : 全自動 (→47頁)
- 📷: ポートレート (→48頁)
- 🏞️: 風景 (→48頁)
- 🌸: クローズアップ (→49頁)
- 🏃: スポーツ (→49頁)

パネル表示

この図は全ての情報を表示したものです。通常は必要な情報だけが表示されます。

シャッター速度表示
ISO フィルム感度値表示
深度優先 AE 表示
カスタム機能 No.表示
キャリブレーション表示
フィルム巻き戻し作動表示

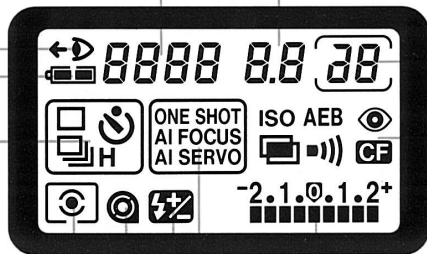
視線入力表示
バッテリーチェック表示

フィルム巻き上げ表示
一枚撮り
連続撮影
高速連続撮影
セルフタイマー表示

測光モード表示
評価測光
スポット測光
中央部重点平均測光

フィルム状態表示
フィルム在否確認
フィルム巻き戻し完了

ストロボ調光補正表示



絞り値表示
AEB ステップ値
DEP 回数
カスタム機能セット表示
赤目緩和機能セット表示
電子音セット表示
キャリブレーション No.表示
フィルム巻き戻し作動表示

フィルム枚数計
多重露出予約回数
多重露出撮影回数

ISO フィルム感度表示
AEB 表示
赤目緩和表示
多重露出表示
電子音表示
カスタム機能表示

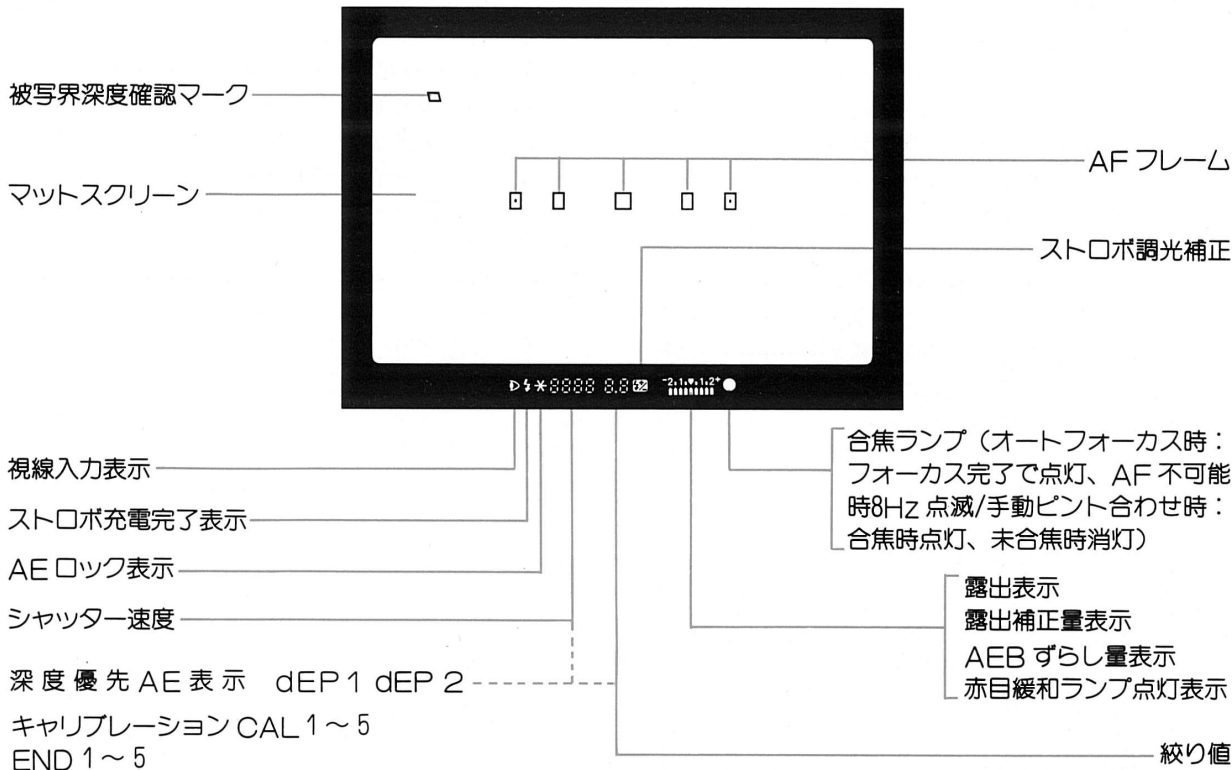
露出表示
露出補正量表示
メータードマニユアル露出表示
AEB 露出ずらし量表示
ストロボ調光補正量表示
赤目緩和ランプ点灯表示
フィルム巻き戻し作動表示

AF モード表示
ONE SHOT AF
AI FOCUS AF
AI SERVO AF
手動ピント合わせ (全 AF 表示消灯)

- ・モードダイヤルを L にセットしても、カメラは表示のために微弱な電流を必要とします。

ファインダー内表示

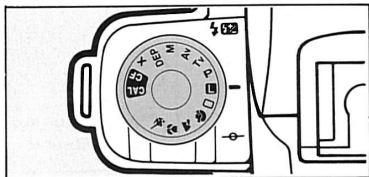
下の図はファインダー内の情報をすべて表示したものです。実際は必要な情報だけが表示されます。



もくじ

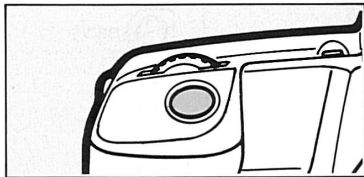
I	主要機能一覧	7	6.	X (シンクロ撮影)	46
II	カメラの準備	9	7.	イメージセレクトによる撮影	47
	ストラップの取り付け	9	8.	AE ロック撮影	50
	1. 電池のセットとチェック	9	9.	AEB 撮影	51
	2. レンズの取り付け/取り外し	11	10.	多重露出撮影	53
	3. フィルムのセットと巻き戻し	12	11.	バルブ撮影	54
	4. フィルム感度のセット	14	12.	セルフタイマー撮影	55
	5. 視線入力の準備	15	V	クオートテート	56
III	撮影のための準備操作	18	VI	カスタム機能	58
	1. 視線入力 AF の使い方	18	VII	参考資料	61
	2. その他の AF フレームの選択	22		1. 露出警告一覧	61
	3. フィルム巻き上げの切り換え	25		2. プログラム線図	63
	4. AF モードの切り換え	26		3. 機能組合せ一覧	65
	5. 測光モードの切り換え	29	VIII	主なアクセサリ	66
	6. 露出補正	30		取り扱い上のご注意	70
	7. 電子音の解除と設定	31		主要性能表	73
	8. 内蔵ストロボ	32			
	9. ストロボの調光補正	35			
IV	撮影	37			
	1. P (インテリジェントプログラム AE)	37			
	2. TV (シャッター優先 AE)	39			
	3. AV (絞り優先 AE)	41			
	4. M (マニュアル)	43			
	5. DEP (深度優先 AE)	44			

I 主要機能一覧



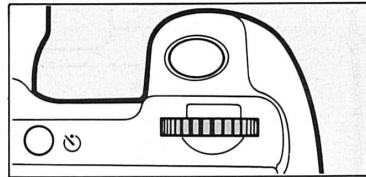
モードダイヤル

撮影モードを選択します。Lでダイヤルはロックされます。ロックを解除するときはロック解除ボタンを押しながらダイヤルを回します。ロックを解除すると電源が入ります。



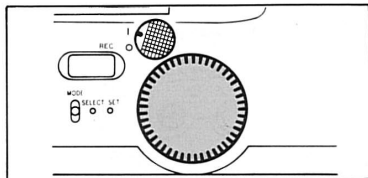
シャッターボタン

シャッターボタンは2段階になっています。1段目でピント合わせと測光を行ない、2段目でシャッターが切れます。



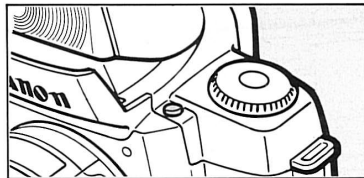
メイン電子ダイヤル

他のボタンと併用してAFモード、フィルム巻き上げ、測光モード、AFフレームの切り換えなどを行ないます。単独でシャッター速度のセット、プログラムシフトなどを行ないます。



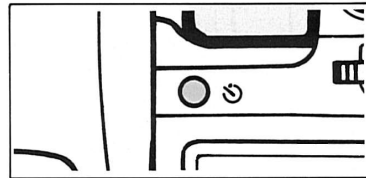
サブ電子ダイヤル

マニュアル撮影時の絞り値セット、AE撮影時の露出補正やストロボの調光補正などを行ないます。サブ電子ダイヤルスイッチでサブ電子ダイヤルの機能をON/OFFします。(I=ON)




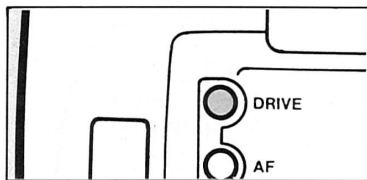
ストロボボタン

クリエイティブゾーンでは押すとストロボが上がります。再度このボタンを押しメインダイヤル、サブ電子ダイヤルで調光補正を行ないます。ストロボは手で押し下げで収納します。





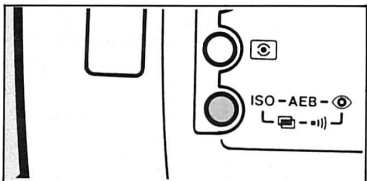
セルフタイマーボタン

押し表示パネルにを表示させセルフタイマー撮影をセットします。再度押しとセットが解除されます。



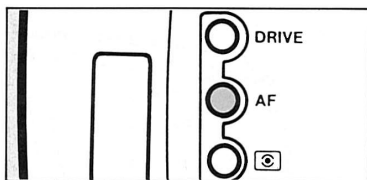
巻き上げモード切り換えボタン

押してメイン電子ダイヤルでフィルムの巻き上げモード（□：一枚撮り、：連続撮影、H：高速連続撮影）を選択します。選択した巻き上げモードは表示パネルで確認できます。



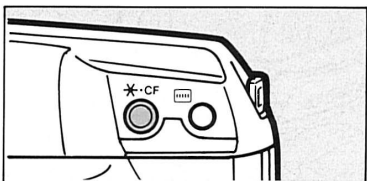
ファンクションボタン

このボタンとメイン電子ダイヤル操作の組み合わせでフィルム感度、AEB、赤目緩和、合焦電子音、多重露出の設定、解除を行いません。各設定は表示パネルで確認できます。



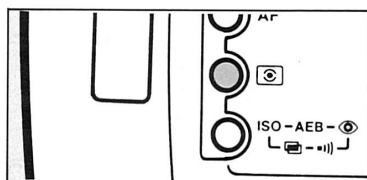
AF モード切り換えボタン

押してメイン電子ダイヤルでAFモード（ONE SHOT：ワンショットAF、AI SERVO：AI サーボAF）を選択します。選択したAFモードは表示パネルで確認できます。






AE ロック/カスタム機能 選択ボタン

押すと露出がロックされます。構図を変えても露出は変わりません。また、モードダイヤルとこのボタンでカスタム機能の設定、解除を行いません。



測光モード切り換えボタン

押してメイン電子ダイヤルで測光モード（：評価測光、：スポット測光、：中央部重点平均測光）を選択します。選択した測光モードは表示パネルで確認できます。



AF フレーム選択ボタン

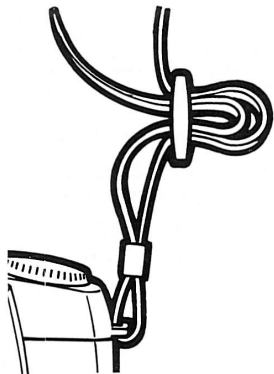
5つのAFフレームから任意の1つを選択します。このボタンを押した後、メイン電子ダイヤルの操作により希望するAFフレームを選択します。

II カメラの準備

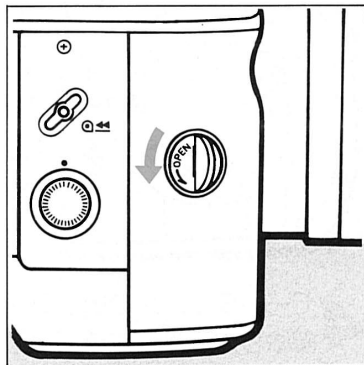
1. 電池のセットとチェック

ストラップの取り付け

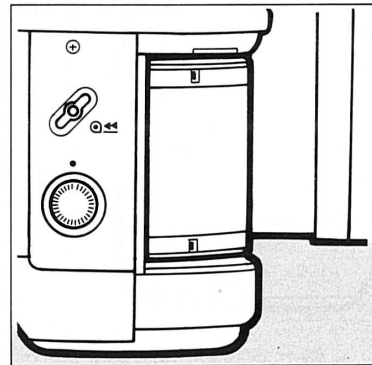
ストラップの先端を止め具の内側になるように通してください。



電池はリチウム電池/パック2CR5を1個使用します。






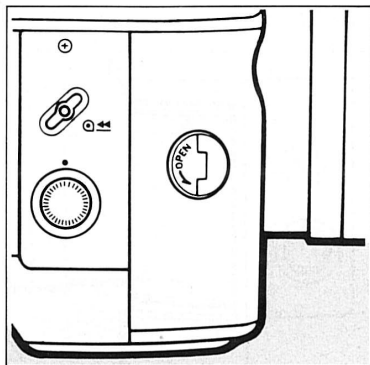
1 電池室蓋着脱ノブを回して
電池室蓋を外します。



2 電池の向きををまちがえない
ようカメラにセットしま
す。

機能変更に使用する各ボタンにはタイマー機能が備わっています。押したボタンから指を離しても、そのボタンの機能とファインダー内およびパネルの表示を約6秒間維持します。シャッターボタンを1段目まで押したあとも同様ですがこの間も電池を消耗します。測光タイマーについてはカスタム機能(CF13、60頁参照)にて電池の節約ができます。

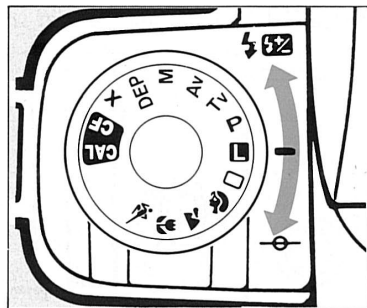
-  点灯：新品の電池をご用意ください。
-  点灯：まもなく電池切れとなります。早目の電池交換をおすすめします。
-  点滅：電池交換してください。点滅していてもシャッターが切れれば写真は適正露出になります。交換後も点滅したときおよび寒冷地でのご使用については71頁をご参照ください。




3 電池室蓋をはめ着脱ノブを回して完全に止めます。


電池を節約する使い方

- ・シャッターボタンの1段押しを繰り返さない。また押し続けたままにしない。
- ・シャッターボタンを1段押し後、できるだけ早く撮影する。
- ・測光タイマーの解除（60頁参照）



4 モードダイヤルのロックを解除したとき、表示パネルに  が点灯すれば電池容量は十分です。

- ・ロック解除ボタンを押しながらモードダイヤルを回すとロックは解除されます。

カメラを使用しないときはモードダイヤルを  にしてください。シャッターボタンが不用意に押されて起こる電池の消耗と無駄写しを防ぎます。

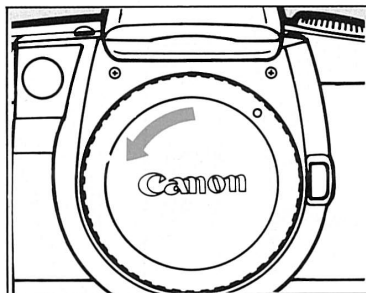
●リチウム電池2CR5の寿命 (フィルム給送本数)

温度	常温 (+20°C)	低温 (-20°C)
ストロボ撮影なし	40本	15本
50%ストロボ撮影	20本	9本
全てストロボ撮影	12本	—

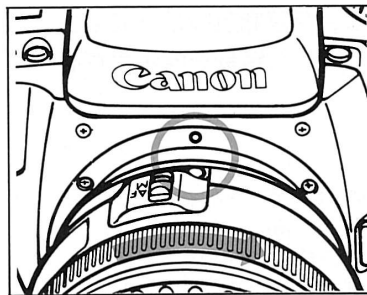
- ・当社試験条件による（EF28-105mm F3.5-4.5USMレンズを装着、24枚撮りフィルム使用、シャッター速度：1/1,000秒、1コマ毎に無限遠から至近まで1往復させシャッターボタン1段目で保持し、6秒後にリリース、フィルム巻き上げ：1枚撮影、AFモード：ONE SHOT、視線入力：ON）。
- ・フィルム給送本数にはフィルムを入れずに空撮りした回数も含みます。
- ・撮影しなくてもシャッターボタンの1段押しでシャッタースピードと絞り値の表示が出ている間は電池が消耗され多用されますと上記本数が撮れない場合があります。

2. レンズの取り付け/取り外し

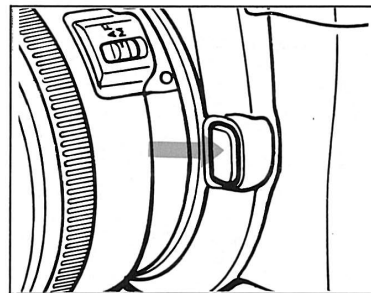
- ・リチウム電池パック2CR5を交換するとカメラの各機能は、カメラを購入して初めて電池を入れたときと同じ設定になります。ただし視線入力AFの為の登録とカスタム機能フィルム枚数計は電池を交換してもその設定は保持されています。



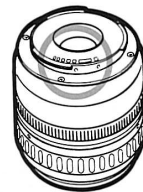
- 1 ボディキャップを外します。



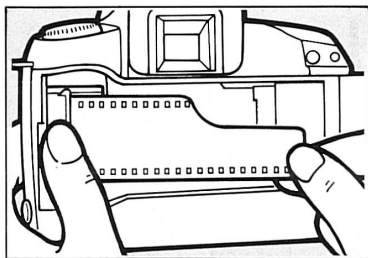
- 2 レンズとカメラの赤いマークを合わせて、レンズを矢印の方向にカチッと音がするまで回します。



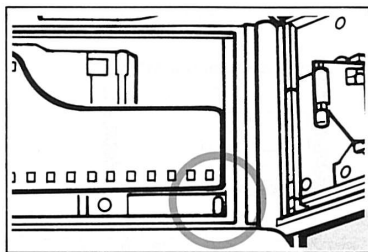
- ・レンズを外すときはレンズ取り外しボタンを押しながら逆方向に回します。




レンズを外したときは電気接点やレンズ面を傷つけないよう、取り付け面を上にして置いてください。

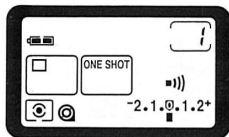



4 パトローネを押さえ、フィルムがたるまないよう引き出し、先端をオレンジマークに合わせます。





5 フィルムの先端がオレンジマークに合っていることを確認して背蓋を閉じます。

- ・背蓋を閉じると、自動的にフィルムを巻き上げ1枚目にセットします。
- ・表示パネルに  とフィルムの1枚目を意味する「1」が表示されます。




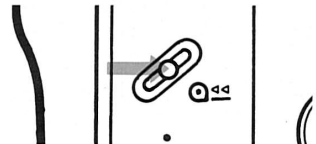
- ・  が点滅した場合はフィルムが正しくセットされていません。フィルムを入れなおしてください。フィルムが正しくセットされていないとシャッターは切れません。

フィルムの巻き戻し

フィルムが終了すると自動的に巻き戻しが始まります。巻き戻し中は、表示パネルのシャッター速度、絞り値表示部と露出補正量表示部で巻き戻し中であることを表示し、巻き戻しが終了すると表示パネルの  が点滅します。  の点滅を確認して背蓋を開けフィルムを取り出します。

フィルムの途中巻き戻し

フィルム巻き戻しボタンを押すと、ただちにフィルム巻き戻しを開始します。巻き戻しが終了すると表示パネルの  が点滅します。



4. フィルム感度のセット

自動セット

DX コード付きフィルムは自動的にフィルム感度がセットされます。

- ・自動セットの範囲は ISO 25～5000 です。
- ・DX コードのついていないフィルムをセットすると表示パネルに ISO が点滅します。
- ・ファンクションボタンを押して表示パネルに ISO を表示するとフィルム感度を確認できます。

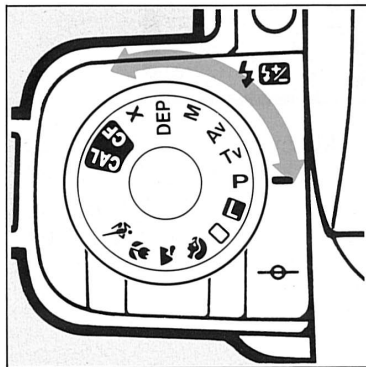
フィルム感度値の表示

手動フィルム感度のセット範囲は ISO 6～6400 です。

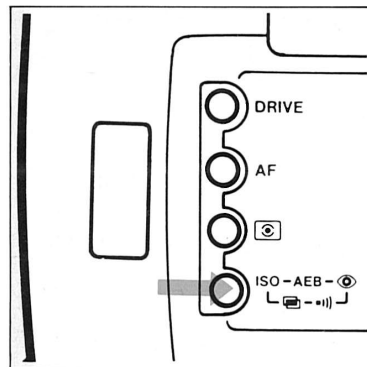
6、8、10、12、16、20、25、32、40、50、64、80、100、125、160、200、250、320、400、500、640、800、1000、1250、1600、2000、2500、3200、4000、5000、6400

手動セット

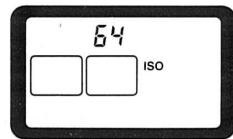
DX コードのついていないフィルムや DX コードがついていても実効感度をセットするときは手動で感度をセットします。



- 1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにセットします。



- 2 表示パネルに ISO が表示されるまでファンクションボタンを押します。



- 3 表示パネルで確認しながらメイン電子ダイヤルを回して感度値をセットします。

5. 視線入力の準備

視線入力とは

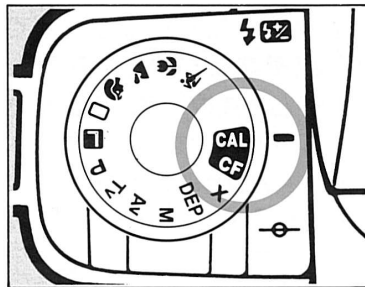
眼がファインダーのどこを見ているかをカメラが自動的に判断して、そこにある被写体にピントを合わせる機能です。見たところにピントが合うという人間の眼に近づいた機能といえます。

視線の登録方法（キャリブレーション）

視線入力（→18頁）を使用するためには眼の動きを検知するために、撮影者の眼の状態（瞳孔の大きさ、裸眼あるいはコンタクトレンズや眼鏡の有無など）をカメラに登録する必要があります。複数の人でカメラを使用するときは、使用する人別に眼の状態を登録してください。キャリブレーションは1から5までのキャリブレーション番号に異なった条件を登録をすること

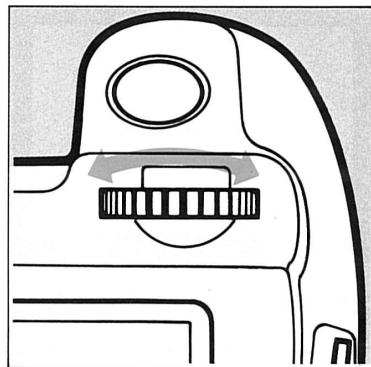
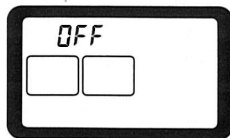
ができます。

- ・キャリブレーションはカメラを横位置に構えて行ないます。
- ・屋外でキャリブレーションするときは、太陽を背にしてください。



1 モードダイヤルを **CAL** にセットします。

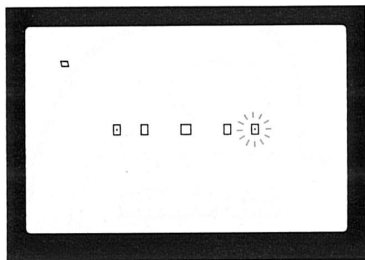
- ・表示パネルに「OFF」が表示されます。



2 メイン電子ダイヤルを回して表示パネルに「CAL-番号」を表示します。

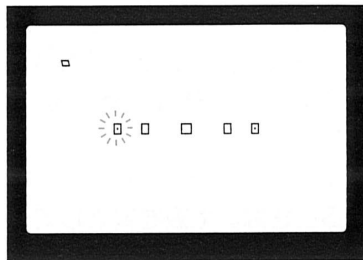
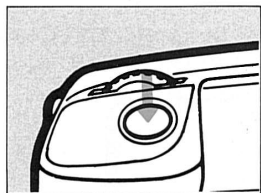
- ・キャリブレーションされていない番号は点滅表示されます。





3 ファインダー内で点滅する右端の AF フレームを注視しながらシャッターボタンを押します。

- ・電子音が「ピピッ」と鳴ります*。



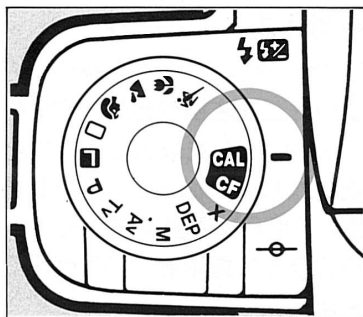
4 つづけてファインダー内で点滅する左端の AF フレームを注視しながらシャッターボタンを押します。

- ・電子音が鳴りキャリブレーションが完了するとファインダー内および表示パネルに「END」およびキャリブレーション番号が点灯します。
- ・キャリブレーション操作を中断している間に、ファインダー内で赤く点灯している AF フレームが消えたら、シャッターボタンを 1 段目まで押して手順「3」からやり直してください。

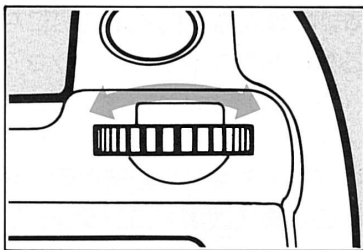
* 電子音が断続して鳴り、キャリブレーション番号が点滅したときはモードダイヤルを 1 度 **CAL** 以外の任意の位置にセットして、再度手順「1」からやり直してください。

キャリブレーションの登録 消去

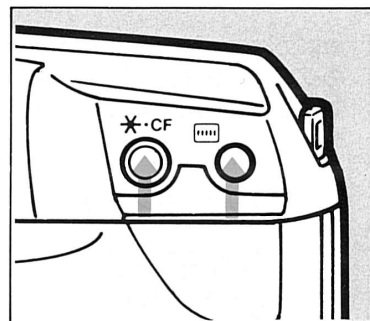
同一のキャリブレーション番号に異なった眼の状態でのキャリブレーションを行ったり、複数の人がキャリブレーションを行なうと、視線入力への作動が不安定になったり、誤作動を起こすことがあります。そのようなときは登録されているキャリブレーションを消去して、改めてキャリブレーションを行ないます。



1 モードダイヤルを **CAL** に
セットします。



2 メイン電子ダイヤルを回して
表示パネルに登録内容を
消去するキャリブレーション
番号を表示します。



3 AEロックボタンとAF
フレーム選択ボタンを同時
に押します。

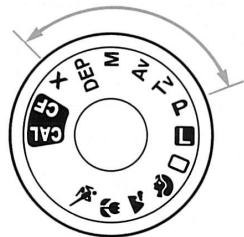
- ・表示パネルのキャリブレーション番号が点滅し、内容が消去されたことを表示します。

キャリブレーションがうまくいかないとき、または希望するAFフレームが視線でうまく選択されないときはこの使用説明書に添付の別紙を参照してください。

III 撮影のための準備操作 1. 視線入力 AF の使い方

撮影の準備はモードダイヤルのクリエイティブゾーンのみで行ない、利用することができます。

クリエイティブゾーン

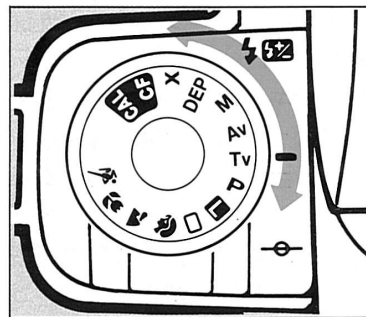


視線入力による AF

ファインダー内の任意の AF フレームを注視するだけでその AF フレームを選択できます。視線入力 AF は □ (全自動撮影)、DEP (深度優先 AE) 以外の全ての撮影モードで使用できます。

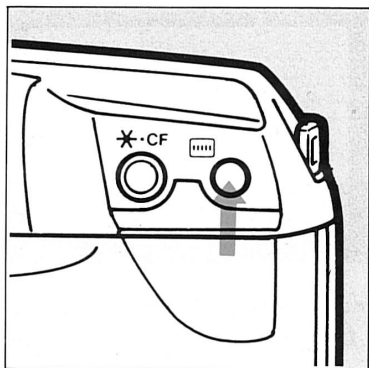
視線入力 AF はキャリブレーションによって撮影者の眼の状態をカメラに登録して使用します。視線入力 AF をお使いになる前に必ずキャリブレーション (→15頁)を行なってください。

- ・視線入力 AF は必ずキャリブレーションした時と同じ眼の状態 (眼鏡・コンタクトレンズの着用など) でお使いください。
- ・視線入力 AF がセットされていても手動で AF フレームを選択できます (→22頁)。



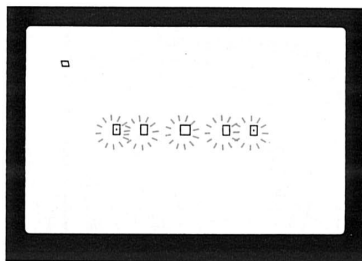
- 1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにセットします。

視線入力の準備 (→15、16頁) に引き続き視線入力 AF を使って撮影する方は、20頁の手順「6」から操作してください。



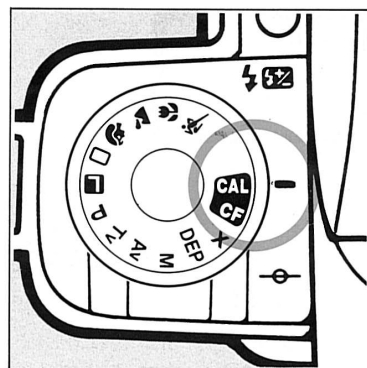
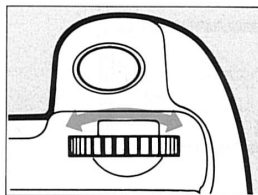
2 AF フレーム選択ボタンを押します。

- ・ 選択されている AF フレームがファインダー内で赤く点灯し、表示パネルで AF フレームマークが点滅します。



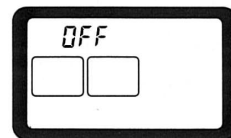
3 メイン電子ダイヤルを回して全ての AF フレームを選択します。

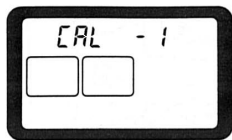
- ・ 全ての AF フレームがファインダー内で赤く点灯し、表示パネルで AF フレームマークが点滅します。



4 モードダイヤルを CAL にセットします。

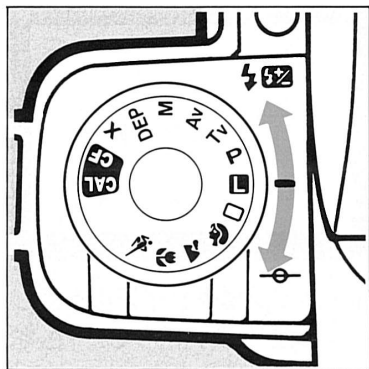
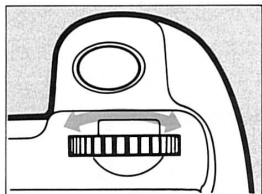
- ・ 表示パネルに「CAL」または「OFF」が表示されます。





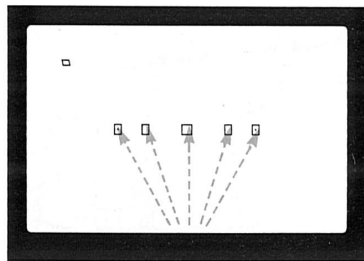
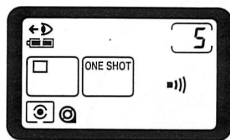
5 メイン電子ダイヤルを回して表示パネルにご自分のキャリブレーション番号を表示します。

- ・キャリブレーションされている番号は点灯し、されていない番号は点滅します。



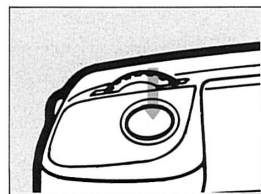
6 モードダイヤルを操作して撮影モードを選択します。

- ・ファインダー内に **▶**、表示パネルに **◀▶** が表示されます。



7 ファインダーをのぞき、任意のAFフレームを注視しながらシャッターボタンを1段目まで軽く押します。

- ・注視したAFフレームが赤く点灯しそのAFフレームで測距します。



8 視線入力 AF の解除は手順「5」で「OFF」を選択します。

- ・この場合、自動選択 AF になります。

視線入力 AF はカメラを縦位置で使用している間は自動選択 AF に変わり、ファインダー内の▷は消えます。

注視した AF フレームを選択できなかった場合

- 1) ファインダー内の▷が点滅し、自動選択 AF (→23頁) で AF フレームが選択され合焦します。合焦後も▷は点滅を続けていますが、視線入力での被写界深度を確認できます。シャッターボタンを押し直すと視線入力 AF に戻ります。
- 2) 撮影場所のちがいによって眼の状態が変化していることが考えられます。光線状態が異なる

撮影場所では、使用中のキャリアレーション番号でさらにキャリアレーションを行なってください(→15頁)。キャリアレーションを追加することにより学習機能により視線入力 AF の使い勝手は向上します。

- ・同一のキャリアレーション番号に複数の人や、異なった眼の条件でキャリアレーションを行なうと、視線入力 AF の作動が不安定になったり、誤作動を起こすことがあります。そのようなときは登録されたキャリアレーションを消去して(→17頁)、改めてキャリアレーションを行なってください。

このカメラはカメラの横位置、縦位置を自動的に検出しています。カメラの構え(横位置、縦位置)を変えると、カメラ内でこの検出機構が発する音がしますが、これは異常ではありません。

視線入力による被写界深度の確認

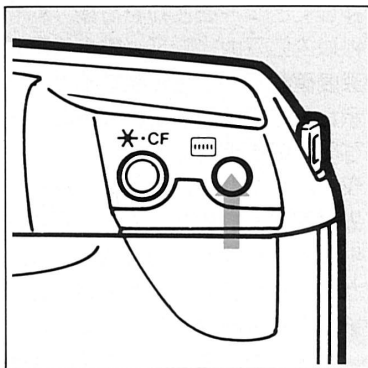
クリエイティブゾーンで視線入力 AF をセットすると、ONE SHOT オートフォーカスモードでシャッターボタンを1段目まで押しピントを合わせた後、約5秒以内にファインダー内の被写界深度確認マークを注視すると、表示された絞り値まで絞り込み、被写界深度を確認できます。シャッターボタンから指を離すと絞り込みは解除されます。また、自動選択 AF (→22頁) でも視線入力 AF がセットされていると視線入力での被写界深度を確認できます。

- ・視線入力により被写界深度を確認できるのは、ピント合わせ後約5秒間です。それ以上時間が経過した場合は、改めてピントを合わせ直し、約5秒以内に被写界深度確認マークを注視してください。

2. その他の AF フレームの選択

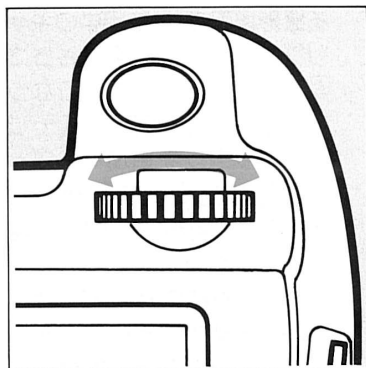
手動選択 AF

クリエイティブゾーンでは、ファインダー内の AF フレームをメイン電子ダイヤルの操作で任意に選択できます。



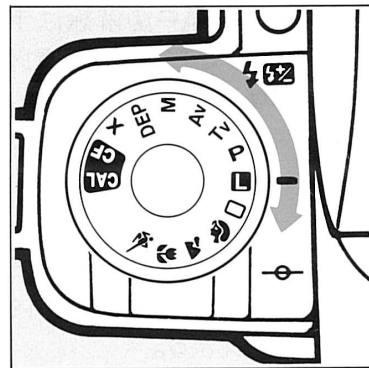
1 AF フレーム選択ボタンを押します。

- 選択されている AF フレームがファインダー内で赤く点灯し、表示パネルで AF フレームマークが点滅します。



2 メイン電子ダイヤルを回して希望する AF フレームを選択します。

- 選択された AF フレームがファインダー内で赤く点灯し、表示パネルで AF フレームマークが点滅します。
- シャッターボタンを 1 段目まで軽く押すか、6 秒経過するとセットは完了します。

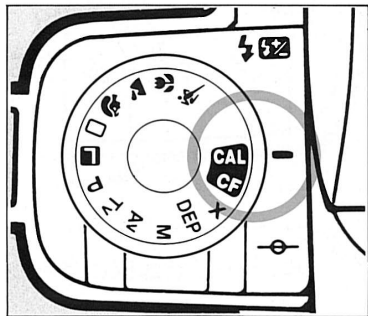


3 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにセットします。

- 選択した AF フレームで測距します。

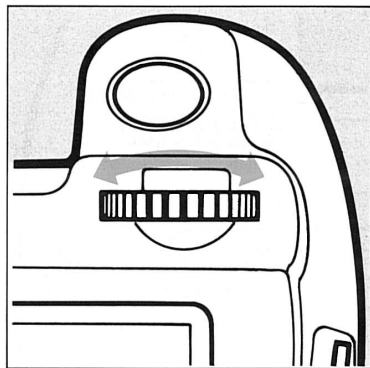
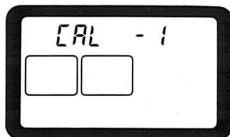
自動選択 AF

撮影の状況に応じてカメラが自動的に AF フレームを選択します。

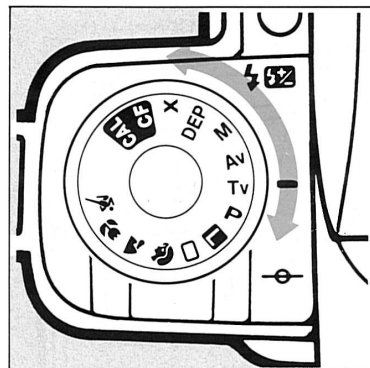
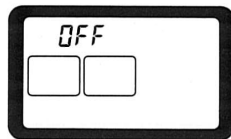


1 モードダイヤルを **CAL** にセットします。

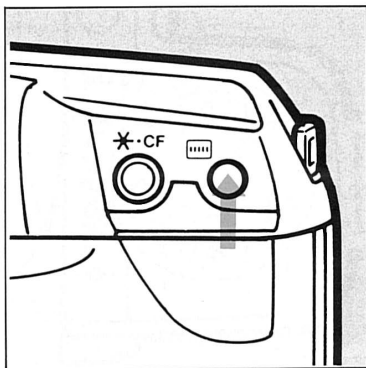
- ・表示パネルに選択されているキャリブレーション番号が表示されます。



2 メイン電子ダイヤルを回して表示パネルに「OFF」を表示します。

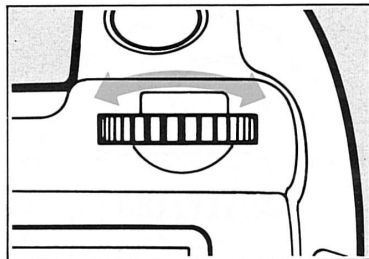


3 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにセットします。



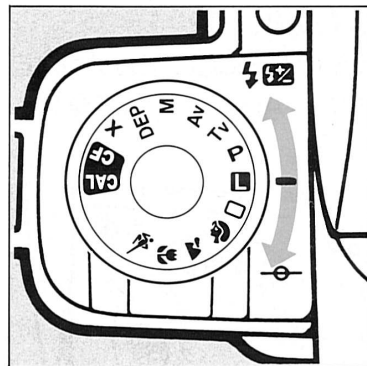
4 AF フレーム選択ボタンを押します。

- ・ 選択されている AF フレームがファインダー内で赤く点灯し、表示パネルで AF フレームマークが点滅します。



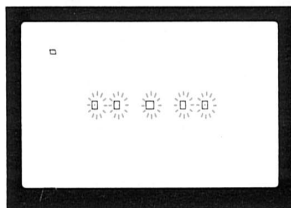
5 メイン電子ダイヤルを回して全ての AF フレームを選択します。

- ・ 全ての AF フレームがファインダー内で赤く点灯し、表示パネルで AF フレームマークが点滅します。
- ・ シャッターボタンを 1 段目まで軽く押すか、6 秒経過するとセットは完了します。



6 モードダイヤルを操作して撮影モードを選択し撮影します。

- ・ カメラが判断した AF フレームで測距します。



3. フィルム巻き上げの切り換え

フィルム巻き上げには次の3種類があります。

- ・ AFモードとフィルム巻き上げの関係については65頁を参照してください。

□（一枚撮り）

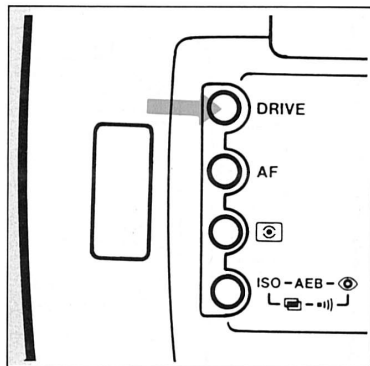
撮影した後カメラが自動的にフィルムを1枚巻き上げます。撮影後シャッターボタンを1段階目まで戻した位置から次のレリーズを行なうことができます。

📷（連続撮影）

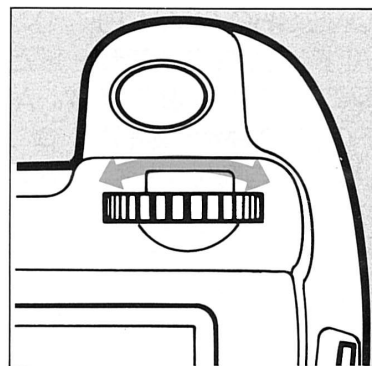
シャッターボタンを押し続けている間連続撮影します。

📷H（高速連続撮影）

シャッターボタンを押し続けている間、高速で連続撮影します。



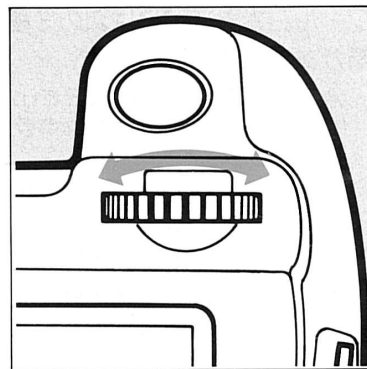
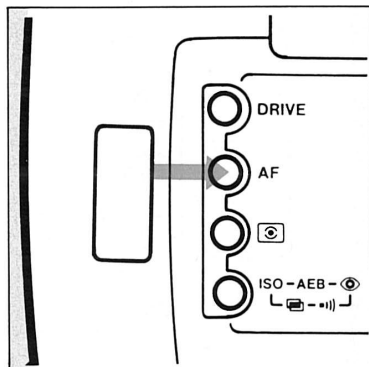
1 フィルム巻き上げモード切り換えボタンを押します。



2 表示パネルで確認しながらメイン電子ダイヤルを回して希望するフィルム巻き上げに切り換えます。

4. AFモードの切り換え

ONE SHOT、AI SERVO、AI FOCUSのAFモードとマニュアルがあります。AI FOCUSは全自動撮影（□）時にのみ自動セットされます。



1 AFモード切り換えボタンを押します。タイマー機能により指を離しても6秒間有効です。

2 表示パネルで確認しながらメイン電子ダイヤルを回して切り換えます。

- ・ AF撮影はレンズのフォーカスモードスイッチをAFにセットする必要があります。



ONE SHOT

撮影距離が変わらない被写体に適しています。ピントが合うまでシャッターは切れません。シャッターボタンを1段目まで押して保持すると、ピントと露出が固定（フォーカスロック）されたままになり、ピントを合わせた後に構図を変えて撮影することができます。

- ・合焦ランプが点滅するときはシャッターが切れません。構図を変えて再度ピント合わせするか、マニュアルフォーカス（→28頁）をご利用ください。

ONE SHOT AFでは被写体にピントが合うと、ファインダー内にAFフレームが赤く光り、合焦ランプが点灯して電子音が「ピピッ」と鳴ります。同時にファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されません。

AI FOCUS

全自動撮影（）時のみ自動的にセットされます。被写体の状況に応じてONE SHOTとAI SERVOを自動的に切り換えます。

AI SERVO

撮影距離がたえず変わる被写体に適しています。シャッターボタンを1段目で保持している間、選択したAFフレームで動いている被写体にピントを合わせ続けます。動体予測機能*でカメラに向かってくる被写体あるいは遠ざかる被写体にもピントが合います。自動選択AFの場合は次のようになります。

- 視線入力AFがONのとき：
選択したAFフレームのみでピントを合わせ続け、動体予測します。
- ・ファインダー内で選択したAFフレームが視線を検知すると赤く光ります。

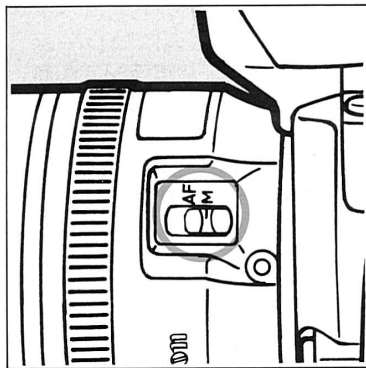
視線入力が OFF のとき：始めに中央の AF フレームで被写体を捉えてください。測距中に被写体が中央の AF フレームを外れると、周囲の AF フレームで被写体を捕捉し、動体予測を継続します。

- ・露出はシャッターが切れる直前に決まります。
- ・合焦マークの点灯と電子音による合焦表示はありません。
- ・フォーカスロック撮影はできません。

*動体予測機能について

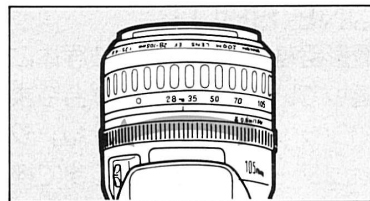
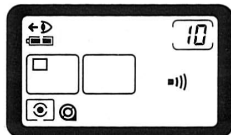
被写体がカメラに近付いてくる場合または遠ざかって行く場合に、その被写体の位置を予測してピントを調整する機能です。クリエイティブゾーンではリリース優先、イメージゾーンでは AF 優先になります。

マニュアルフォーカス



1 レンズのフォーカスモードスイッチを M (MANUAL：手動) にセットします。

- ・表示パネルの AF モード表示が全て消えます。



2 レンズの手動フォーカスリングを回してファインダー内の被写体があつきり見えるようピントを合わせます。

- ・合焦マークの点灯と電子音によりピントが合ったことを知らせます。
- ・視線入力 AF がセットされているときにマニュアルフォーカスにすると、ファインダー内の▶ は消えます。
- ・距離目盛り窓付き USM レンズをご使用の際、ONE SHOT オートフォーカスでピントを合わせた後、レンズのフォーカスモードスイッチを切り換えることなく、マニュアルでピントを合わせることができます。

5. 測光モードの切り換え

測光モードには次の3種類があります。

(評価測光)

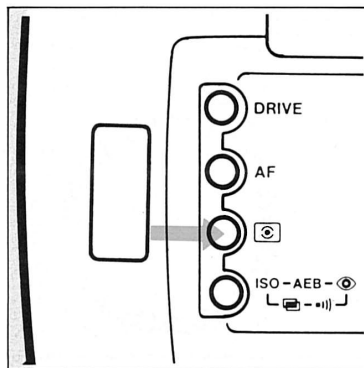
逆光撮影を含む一般撮影に適しています。ファインダー内の主被写体の大きさ、位置、明るさ、背景、順光、逆光などの要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正露出にします。

(スポット測光)

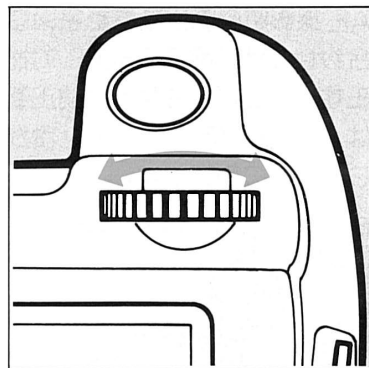
ファインダー中央部(画面の約3.5%)を測光します。

(中央部重点平均測光)

ファインダー中央部に重点をおいて平均測光します。



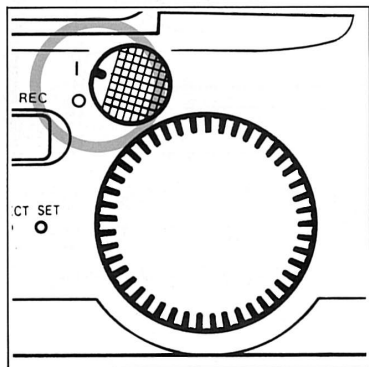
1 測光モード切り換えボタンを押します。



2 表示パネルで確認しながらメイン電子ダイヤルを回して希望する測光モードに切り換えます。

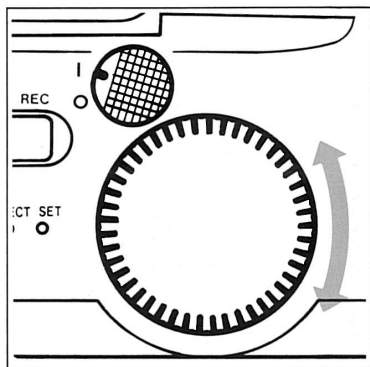
6. 露出補正

AE 撮影時の露出を撮影意図に合わせてサブ電子ダイヤルで補正することができます。補正量は1/2段ステップで、+2段から-2段の範囲です。



1 サブ電子ダイヤルスイッチを 1 にします。

2 被写体にピントを合わせ露出表示を確認します。



3 露出表示を見ながらサブ電子ダイヤルを回し希望する補正量をセットします。

- 表示パネルとファインダー内に補正量が表示されます。+はオーバー側への補正、-はアンダー側への補正です。



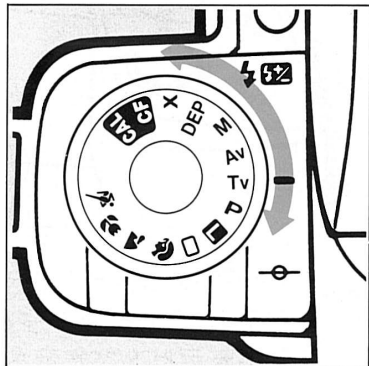
- 補正量セット後サブ電子ダイヤルスイッチを **0** にすると、サブ電子ダイヤルが不用意に動いて補正量が狂うのを防ぎます。

4 撮影します。

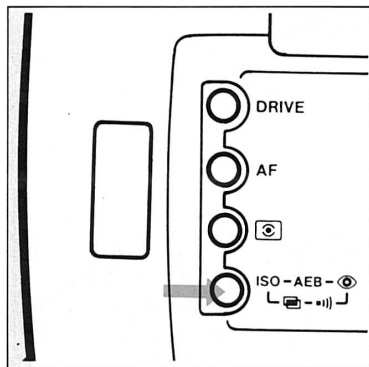
- 露出補正の解除は手順「2」「3」に従って補正量を「0」に戻し、サブ電子ダイヤルスイッチを **0** にします。


7. 電子音の解除と設定

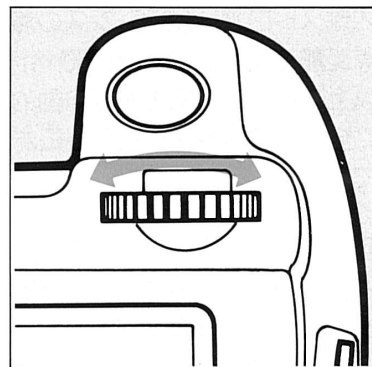
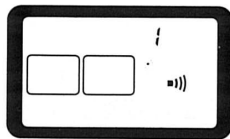
クリエイティブゾーンで合焦時およびセルフタイマー時に鳴る電子音を設定/解除できます。





1 モードダイヤルをクリエイティブゾーンにセットします。



2 ファンクションボタンを押して表示パネルに  を表示します。






3 メイン電子ダイヤルで表示パネルに「1」または「0」を表示します。

- 1 : 電子音を設定します。表示パネルに  が表示されます。
- 0 : 電子音を解除します。撮影モードにしたとき表示パネルから  が消えます。

8. 内蔵ストロボ

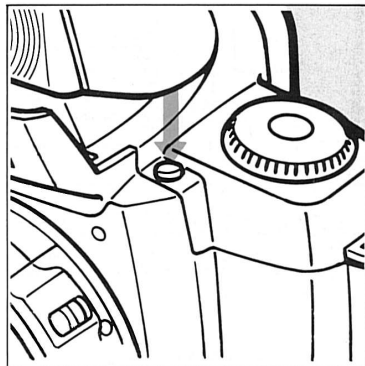
内蔵ストロボは使用レンズの焦点距離(28mm、50mm、80mm以上)に応じて照射角が自動的に変わるオートズームストロボです。

自動発光

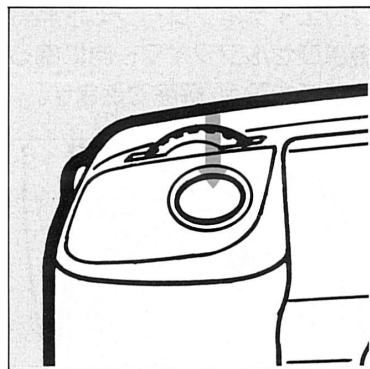
イメージゾーンのうち□、 および  で、被写体が暗いときや逆光のときファインダー内に  が点灯して、ストロボが自動的に上がって発光するフルオート自動調光ストロボです。


手動発光

クリエイティブゾーンでは必要に応じていつでも内蔵ストロボを発光させることができます。



1 ストロボボタンを押してストロボを上げます。





2 シャッターボタンを1段階まで押すとファインダー内に露出表示と  が表示されます。





3 撮影します。

・ストロボを収納する場合は手で軽く押し下げます。

赤目緩和機能

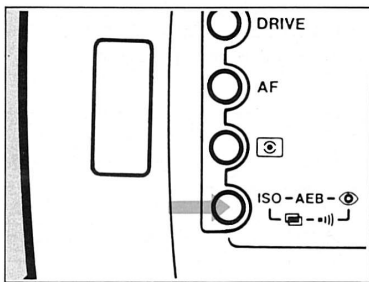
人物をストロボ撮影すると目が赤く写ってしまうことがありますが、これを赤目現象と言います。赤目緩和機能をセットするとストロボ撮影で赤目緩和ランプが点灯して赤目現象を緩和することができます。クリエイティブゾーンとイメージゾーンの □、、 で赤目緩和機能を設定/解除できます。


・、 でも設定/解除できますが機能しません。

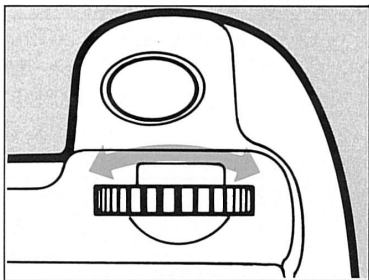
- 赤目緩和効果の度合には個人差があります。
- この機能は、写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。

赤目緩和のためには次のことが効果的です。



- 室内は明るくする
- 写したい人に近づく
- 赤目緩和ランプを見てもらうように声をかける



1 ファンクションボタンを押して表示パネルに  を表示します。




2 メイン電子ダイヤルで表示パネルに「1」または「0」を表示します。

- 1：赤目緩和機能を設定します。
表示パネルに  が表示されます。
- 0：赤目緩和機能を解除します。
表示パネルから  が消えます。

赤目緩和機能を設定してシャッターボタンを押すと、表示パネルとファインダー内に赤目緩和ランプの点灯を示すバーインジケータが表示され、1.5秒後にリリースできます。

次のレンズを使用すると内蔵ストロボの光がケラレることがあります。これらのレンズでストロボを使用するときは外付けの専用ストロボをおすすめします。

- ・EF20-35mm F2.8L、EF28-80mm F2.8-4L などの大口径レンズ
- ・EF300mm F2.8L、EF600mm F4L などの超望遠レンズ

- ・レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは必ずレンズからフードを外してください。
- ・内蔵ストロボと外付けストロボを併用することはできません。
- ・アクセサリシューに専用ストロボおよびアクセサリシューカバーを取り付けると内蔵ストロボは作動しません。
- ・ストロボを押さえたままストロボボタンを押すと、表示パネルに  が点滅してカメラが作動しなくなりますが故障ではありません。シャッターボタンを1段目まで軽く押すとカメラは正常に戻ります。

ストロボ連動距離範囲 (EF28-105mm F3.5-4.5USM を使用した場合)

(m)

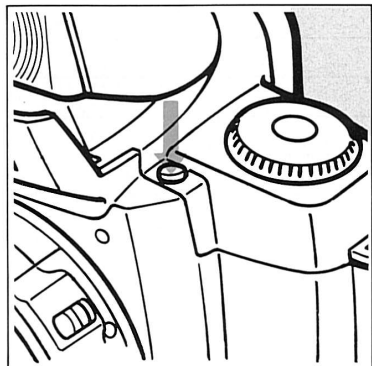
ISO	28mm		80mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1~5.3	1~3.7	1~5.3	1~3.8
400	1.2~10.5	1.6~7.4	1~10.7	1.2~7.6

同調シャッター速度と絞り値

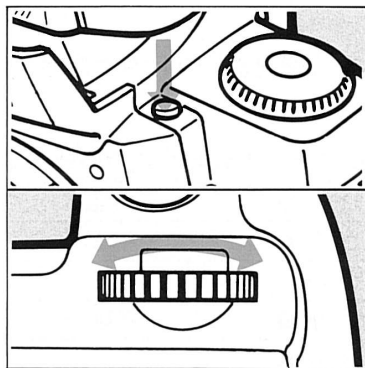
撮影モード	同調シャッター速度	絞り値
P (インテリジェントプログラム AE)	1/60~1/200秒に自動セット	TTL プログラムによる調光絞り値を自動セット
TV (シャッター優先 AE)、M (マニュアル)	1/200秒以下の任意のシャッター速度を手動セット 1/200秒以上にセットした場合は、自動的に1/200秒にセットされます。	セットしたシャッター速度に対し明るさに応じて絞り値を自動セット
AV (絞り優先 AE)	セットした絞り値に対し明るさに応じて30"~1/200秒を自動セット	任意の絞り値を手動セット
X (シンクロ撮影)	1/200秒、1/125秒、1/90秒、1/60秒から任意のシャッター速度を手動セット	任意の絞り値を手動セット

9. ストロボの調光補正

内蔵ストロボおよびEOS専用ストロボの自動調光レベルを補正することができます。補正量は1/2段ステップで+2段から-2段の範囲です。



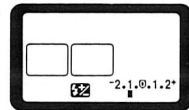
1 ストロボボタンを押して内蔵ストロボを上げます。



2 再度ストロボボタンを押し、メイン電子ダイヤルまたはサブ電子ダイヤルを回して希望する補正量をセレクトします。

- ・サブ電子ダイヤルを使用するときはサブ電子ダイヤルスイッチを **|** にセットします。
- ・表示パネルに **☒** が表示されます。

- ・表示パネルとファインダー内に調光補正量が表示されます。+はオーバー側への補正、-はアンダー側への補正です。



3 ストロボボタンを押すと補正量が設定され、表示パネルとファインダー内の補正量表示が消え、露出補正量を表示します。

- ・補正量セット後サブ電子ダイヤルスイッチを **○** にすると、サブ電子ダイヤルが不用意に動いて補正量が狂うのを防ぎます。
- ・調光補正量を確認するときはストロボを上げてからストロボボタンを押します。
- ・ストロボ調光補正の解除は手順「2」「3」に従って補正量を「0」に戻し、サブ電子ダイヤルスイッチを **○** にします。
- ・ストロボ調光補正と露出補正はそれぞれ独立して行なうことができます。

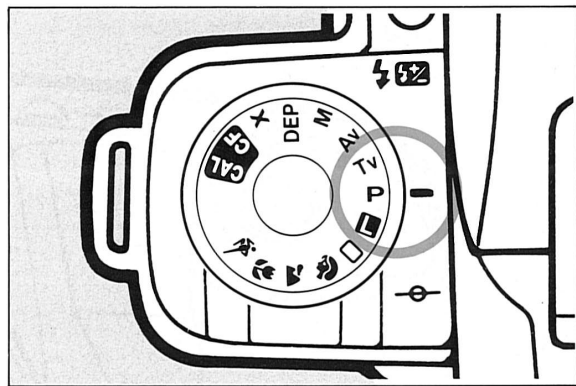
ストロボ調光補正優先一覧

カメラとEOS専用ストロボでそれぞれ調光補正を行なったときの優先順位とその組み合わせを以下に示します。

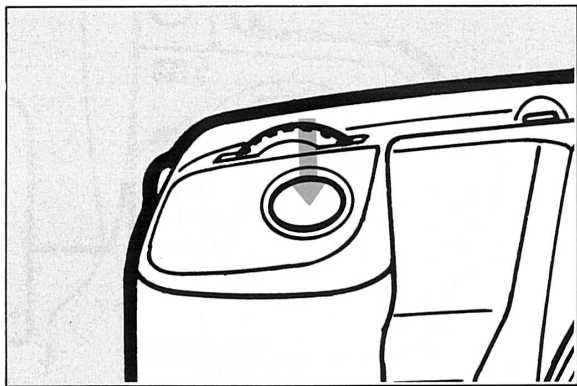
	カメラ側でセット	専用ストロボ側でセット	カメラ、専用ストロボの両方でセット
MACRO RING LITE ML-3	カメラセット値	不可	—
160E	カメラセット値	不可	—
200E	カメラセット値	不可	—
300EZ	カメラセット値	不可	—
420EZ	カメラセット値	不可	—
430EZ	カメラセット値	ストロボセット値	ストロボセット値

IV 撮影 1. P (インテリジェントプログラム AE)

被写体の明るさに応じて適正露出になるようシャッター速度と絞り値の組み合わせをカメラが自動選択します。



- 1 モードダイヤルをPにセットします。



- 2 被写体に AF フレームを合わせ、シャッターボタンを1段目まで軽く押します。
- 3 露出表示を確認し、さらにシャッターボタンを押して撮影します。

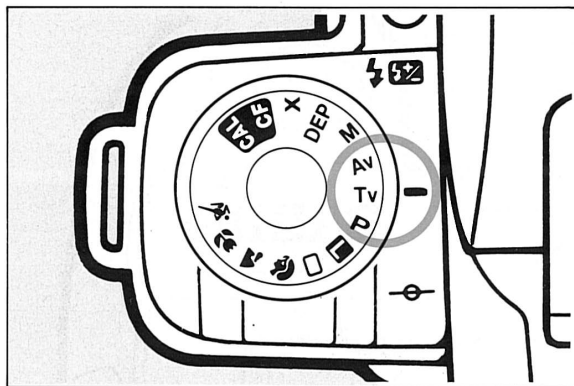
プログラムシフト

インテリジェントプログラム AE および深度優先 AE 撮影中、プログラムをシフトしてシャッター速度と絞り値を変更できます。シャッターボタンを1段目まで押して露出表示を確認した後メイン電子ダイヤルを回すとシャッター速度と絞り値が変わります。

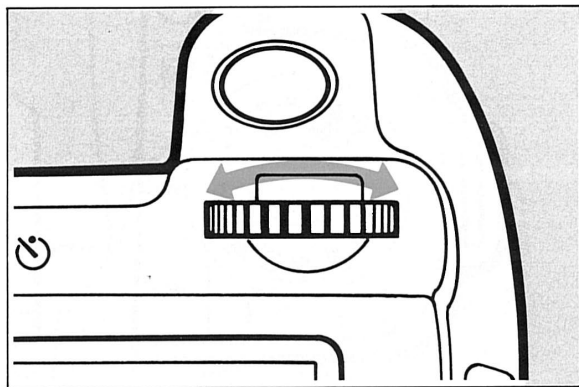
- ・撮影後プログラムシフトは自動的に解除され、元のプログラムに戻ります。
- ・内蔵ストロボおよび外付け専用ストロボを使用するとプログラムシフトできません。

2. Tv (シャッター優先 AE)

シャッター速度をセットすると被写体の明るさに応じて適正露出に必要な絞り値が自動的にセットされます。



1 モードダイヤルをTvにセットします。



2 メイン電子ダイヤルで希望するシャッター速度をセットします。

3 被写体に AF フレームを合わせ、シャッターボタンを1段目まで軽く押します。

4 露出表示を確認し、さらにシャッターボタンを押して撮影します。

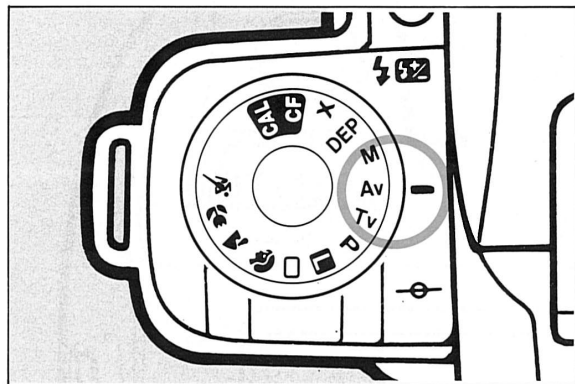
シャッター速度の表示

8000 6000 4000 3000 2000 1500 1000 750 500
350 250 200 180 125 90 60 45 30 20 15 10 8
6 4 3 2 0"7 1" 1"5 2" 3" 4" 6" 8" 10" 15"
20" 30"

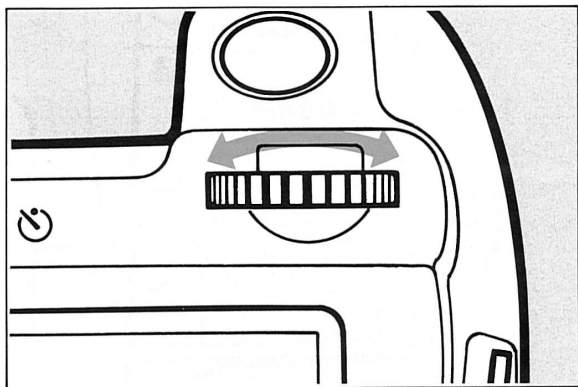
・200はストロボ撮影時にのみ表示されます。

3. Av (絞り優先 AE)

絞り値をセットすると、被写体の明るさに応じて適正露出を得るためのシャッター速度が自動的にセットされます。



1 モードダイヤルを Av にセットします。



2 メイン電子ダイヤルで希望する絞り値をセットします。

3 被写体に AF フレームを合わせ、シャッターボタンを1段目まで軽く押します。

4 露出表示を確認し、さらにシャッターボタンを押して撮影します。

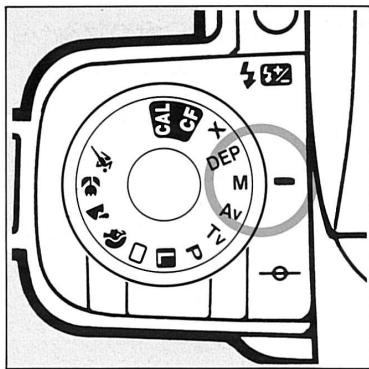
絞り値の表示

1.0 1.2 1.4 1.8 2.0 2.5 2.8 3.5 4.0 4.5
5.6 6.7 8.0 9.5 11 13 16 19 22 27 32 38 45
54 64 76 91

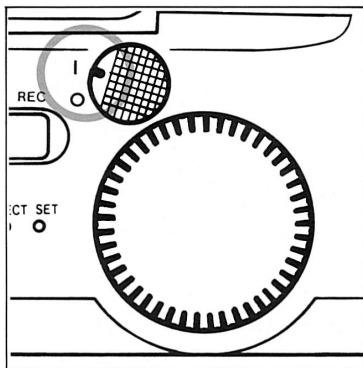
・絞り値の表示は使用するレンズにより異なります。レンズが付いていないときは、パネルの表示が00となり絞り値がセットできません。

4. M(マニュアル)

シャッター速度と絞り値を任意にセットします。意図的に露出を変えたり単独の露出計によって撮影するとき 사용합니다。メイン電子ダイヤルでシャッター速度を、サブ電子ダイヤルで絞り値を設定します。



1 モードダイヤルをMにセットします。



2 サブ電子ダイヤルスイッチを I にします。

3 メイン電子ダイヤルでシャッター速度を、サブ電子ダイヤルで絞り値をセットします。

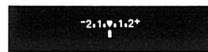
4 被写体にピントを合わせ、露出表示を参考にして露出を決めます。

5 撮影します。

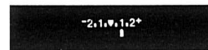
表示パネルおよびファインダー内の露出レベルマークに従って露出を調整します。

適正露出

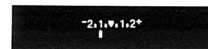
露出を決定するときはこの位置を基準にします。



露出オーバー

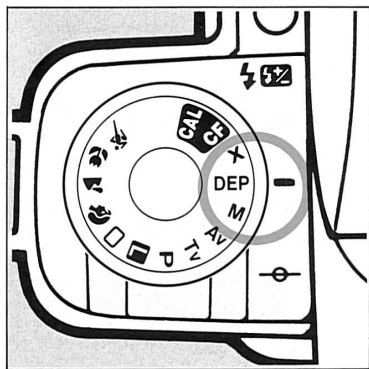


露出アンダー



5. DEP (深度優先 AE)

被写界深度を任意に設定した撮影ができます。



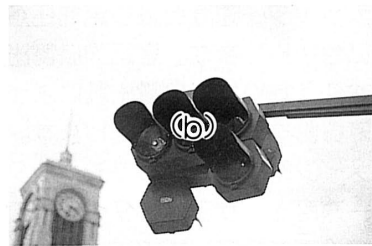
1 モードダイヤルをDEPにセットします。

2 手動選択AF(→22頁)で希望するAFフレームを選択します。



3 選択したAFフレームを1点目(a)に合わせてシャッターボタンを押します。

- ・ファインダー内に合焦ランプが点灯し、ファインダー内と表示パネルに「dEP 1」と表示されます。



4 選択したAFフレームを2点目(b)に合わせてシャッターボタンを押します。

- ・ファインダー内に合焦ランプが点灯し、ファインダー内と表示パネルに「dEP 2」と表示されます。
- ・2点目、1点目の順に操作しても同じ効果が得られます。



5 構図を決めシャッターボタンを1段階まで軽く押して露出表示を確認します。

- 1点目から2点目までを被写界深度内に入れるために必要な絞り値とそれに対応したシャッター速度が表示パネルとファインダー内に表示されます。
- シャッターボタンから指を離すと表示は「dEP」と絞り値に変わります。
- セットされたシャッター速度と絞り値の組み合わせをメイン電子ダイヤルで変えることができます(→38頁)。

6 さらにシャッターボタンを押して撮影します。

絞り値が点滅する場合は希望どおりの被写界深度を得られませんが露出は適正です。このような場合にはレンズを広角にするか被写体から離れて再度、手順「3」～「5」の操作をしてください。

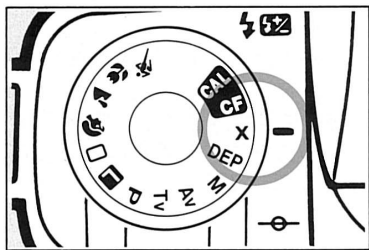
- 深度優先 AE を操作途中で解除するときは、モードダイヤルのセットを DEP 以外にします。
- ズームレンズを使用しているときは、1点目のピントを合わせた後でズーム操作しないでください。
- 被写界深度を深くしたいときは、広角レンズをお使いになることをおすすめします。

- 被写界深度を浅くしたいときは、1点目と2点目を被写体の同じ部分でピントを合わせます。ポートレート撮影に応用すると人物の前景および背景を効果的にぼかすことができます。ポートレート撮影の際は望遠レンズをお使いになることをおすすめします。
- 深度優先 AE ではストロボを併用できません。併用した場合はインテリジェントプログラム AE でのストロボ使用と同じ結果になります。
- 視線入力 AF または自動選択 AF が設定されていると、測距点は中央の AF フレームになります。
- 視線入力 AF で DEP 撮影すると、ファインダー内の **D** が一時的に消えますが、被写界深度マークを注視すると絞り込むことができます。

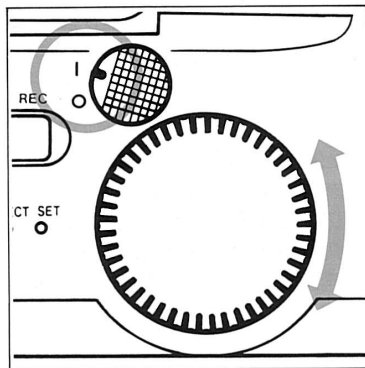
6. X (シンクロ撮影)

シンクロ接点を利用して外部ストロボによるストロボ撮影を行なうことができます。シンクロ接点は X 接点のみで同調シャッター速度は1/200秒、1/125秒、1/90秒、1/60秒です。通常とは逆にサブ電子ダイヤルで同調シャッター速度を、メイン電子ダイヤルで絞り値の設定を行ないます。

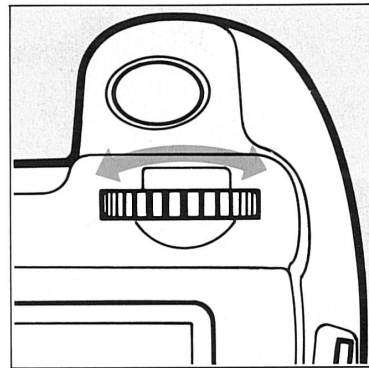
- ・ご使用になる前に外部ストロボの同調シャッター速度範囲をご確認ください。



1 モードダイヤルを X にセットします。



2 サブ電子ダイヤルスイッチを 1 にし、サブ電子ダイヤルで同調シャッター速度をセットします。

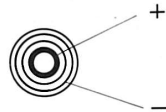


3 メイン電子ダイヤルを回して絞り値をセットします。

4 撮影します。

[ご注意]

このカメラのシンクロ接点の極性は右図のようになっています。シンクロ端子の極性がこのカメラのものとは逆になっている外部ストロボを接続しても発光しませんのでご注意ください。



7. イメージセレクトによる撮影

イメージゾーンの各マークはそれぞれにふさわしい測光方式や AF モードなどがあらかじめ組み合わされています。モードダイヤルを希望のマークにセットするだけで AF モード、フィルム巻き上げ、測光モードなどをカメラ任せで撮影できます。

- ・イメージゾーンで外付けストロボを使用するとイメージ通りの写真が撮れないことがあります。イメージゾーンでは外付けストロボを使用しないでください。
- ・イメージゾーンでは設定されたシャッター速度が「1/使用レンズの焦点距離」以下になると電子音(2回/秒)で手ぶれを警告します。
- ・それぞれの組み合わせ内容については65頁を参照してください。

□ (全自動)

□ は被写体を選ばず気軽に撮影することができるようピント合わせ、露出、フィルム送りが最適にセットされています。

- ・被写体が暗いときや逆光のときはストロボが自動的に発光します。
- ・内蔵ストロボで赤目緩和撮影することができます(→33頁)。
- ・視線入力 AF は使えません。

AF モードの自動切り換えについて

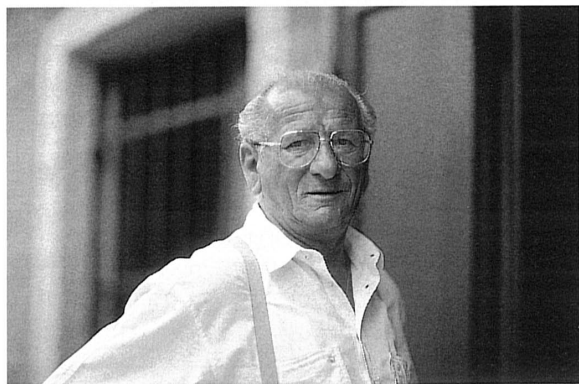
□ ではカメラが被写体の動きを検知して、被写体が動いていなければ ONE SHOT、動いていれば AI SERVO (→27頁) というようにオートフォーカス方式を自動的に切り換えます。

- ・ AI SERVO に切り換わると合焦マークの点灯と電子音による合焦表示はありません。
- ・ AI SERVO から ONE SHOT には切り換わりません。

👤 (ポートレート)

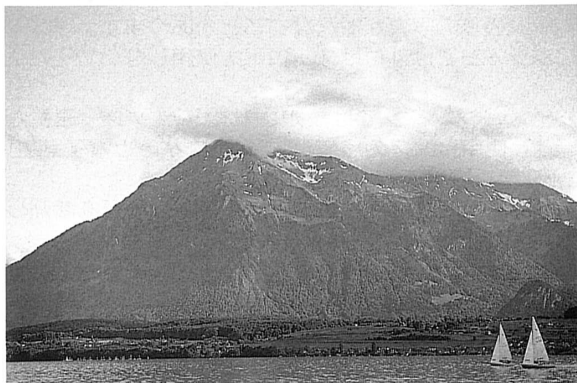
背景をボカして人物を浮き立たせて撮影するとき
にセッティングします。

- ・シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- ・被写体が暗いときや逆光の時はストロボが自動的に発光します。
- ・内蔵ストロボで赤目緩和撮影することができます (→33頁)。



🏞️ (風景)

近景から遠景までを鮮明に撮影するとき
にセッティングします。ズームレンズをお使いの方は
レンズを广角側にして撮影してください。近景から遠景
までの奥行き感に加えて、横の広がりも表現する
ことができます。



🌸 (クローズアップ)

レンズに内蔵されているマクロ機構を利用して、草花や昆虫などを大きく撮るときにセットします。使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。

- 被写体が暗いときや逆光の時はストロボが自動的に発光します。
- 被写体までの距離が1m以内になるとストロボの光がレンズによってケラれることがあります。
- 本格的なクローズアップ撮影にはマクロレンズの使用をおすすめします。



🏍️ (スポーツ)

スポーツや運動会などの動きの速い被写体を撮るときにセットします。シャッターボタンを1段階まで軽く押した状態で被写体を追い続けると、動いている被写体にピントを合わせ続けます。

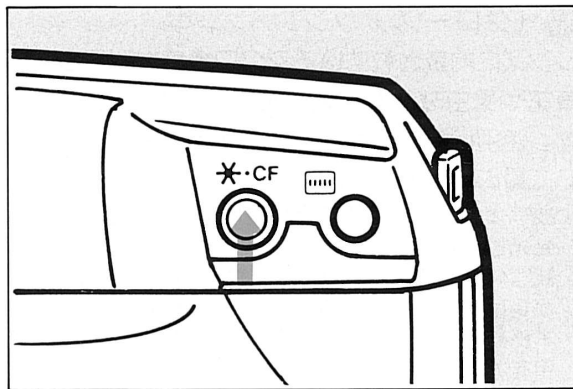
- シャッターボタンを押し続ければ連続撮影になります。



8. AE ロック撮影

AE ロックボタンを押すとファインダー内に * が表示され露出がロックされます。* が表示されている間は露出がロックされています。P、Tv、Av、DEP の各撮影モードで有効です。

- ・フィルム巻き上げが  や  の場合、同じ露出で連続撮影できます。



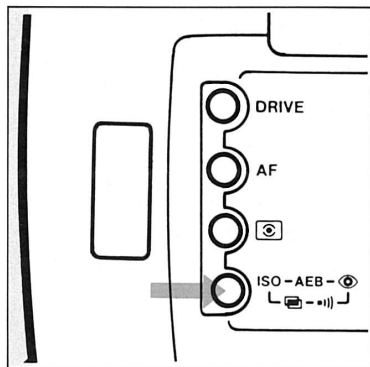
AFフレーム選択モードと測光モードの違いによるAEロック効果

	任意の AF フレームを選択	視線入力/自動選択モード
評価測光	選択されている AF フレームを中心にした測光値でロックする	合焦後、シャッターボタンを1段階目で保持した状態で、選択された AF フレームを中心とした測光値でロックする
スポット測光	中央の AF フレームを中心にした測光値でロックする	
中央部重点平均測光	中央の AF フレームを中心にした測光値でロックする	

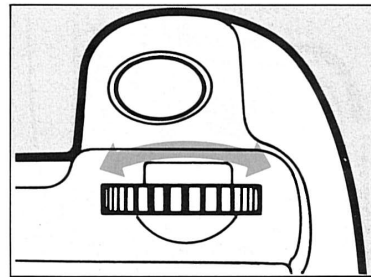
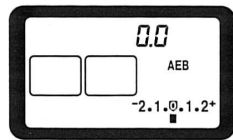
9. AEB 撮影

オートブラケティング (AEB: Auto Exposure Bracketing/自動露出ずらし)は適正露出、露出アンダー、露出オーバーの順に自動的に露出をずらして3枚の写真を撮影します。☺ および☺Hではシャッターボタンを押し続けると、露出をずらしながら連続撮影できます。

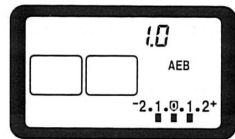
適正露出値から1/2段ステップで、+2段から-2段の範囲で露出をずらすことができます。リバーサル (スライド用) フィルムを使用するとき特に有効です。



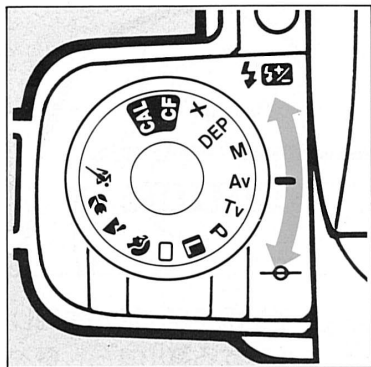
1 ファンクションボタンを押して表示パネルに AEB を表示します。



2 メイン電子ダイヤルを回して希望する露出ずらし量をセッします。



- ・表示パネルには数値と補正レベル表示によって露出をずらす量が表示されます。例えば0.5をセットすると、適正 (±0段)/露出アンダー (-0.5段)/露出オーバー (+0.5段) の順で露出を変えます。
- ・ファインダー内にも補正レベルが表示されます。



3 モードダイヤルで撮影モードを選択して撮影します。

- ・ AEB の解除は手順「1」「2」に従って露出ずらし量を 0 にします。

- ・ 電池を交換すると AEB は解除されます。
- ・ パルブ撮影とストロボ撮影には併用できません。
- ・ シンクロ 接点に外部ストロボを接続して X (シンクロ撮影) で AEB 撮影できます。
- ・ AEB 撮影中は表示パネルおよびファインダー内の露出レベル表示が点滅します。

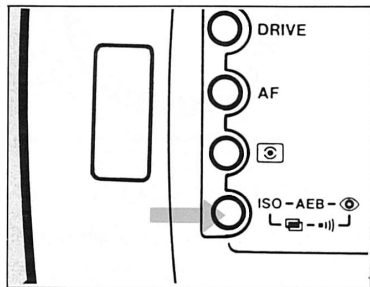
AEB 撮影時にサブ電子ダイヤルで露出を補正すると、表示パネルに正しく表示されないことがあります。撮影は正しく行なわれます。


各撮影モードの AEB における露出補正は次のように行なわれます。

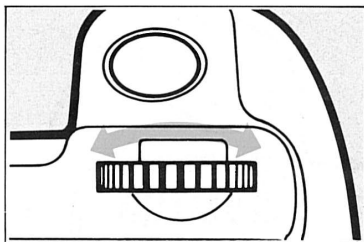
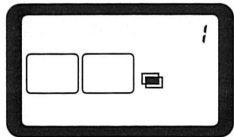
- ① P：シャッター速度、絞り値ともが変わります。
- ② Av、DEP、M：シャッター速度のみが変わります。
- ③ Tv、X：絞り値のみが変わります。

10. 多重露出撮影

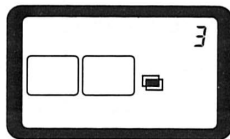
多重露出を使用すれば、同一フィルム面上に画像を重ねて撮影できます。多重露出回数は1度のメイン電子ダイヤル操作で9回までセットできます。




1 ファンクションボタンを押して表示パネルに  を表示します。



2 メイン電子ダイヤルで多重露出回数（3回の多重露出なら3）をフィルム枚数計にセットします。



3 撮影します。

- 多重露出撮影中は表示パネルの  が点滅します。
- 撮影の途中で多重露出を解除するときには手順「1」「2」に従ってフィルム枚数計を空白にします。

- セットした多重露出回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ、多重露出撮影は自動解除されます。

撮影ヒント

同一画面上に何度も露出を与える多重露出撮影では、露出値を最初に補正しておく必要があります。露出補正を併用してください（→30頁）。

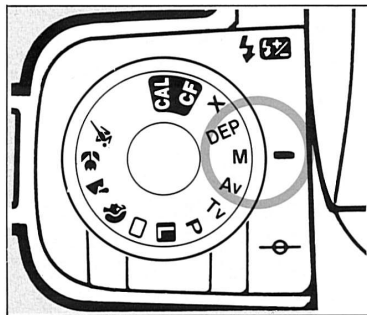
多重露出の回数	補正量の目安
2回	-1.0
3回	-1.5
4回	-2.0

- この補正量はあくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わりますので、あらかじめ撮影データを求めておいてください。

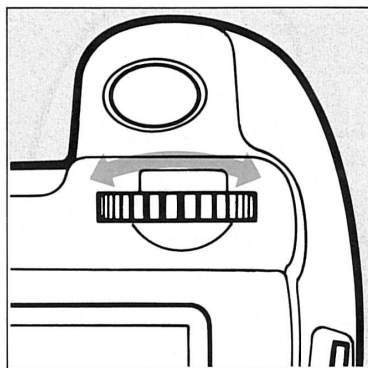
11. バルブ撮影

シャッターボタンを押している間シャッターが開いたままになります。夜景や天体撮影など長時間の露出が必要なときにご使用ください。

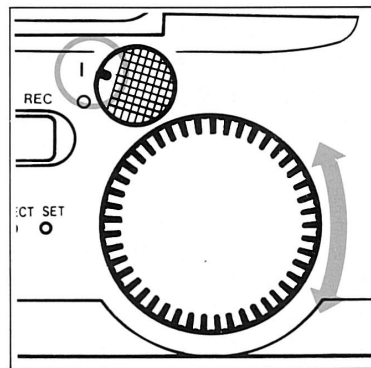
- ・リモートスイッチ60T3 (別売) をカメラのリモコンソケットに接続すれば、シャッターボタンを押し続ける必要はありません。
- ・新品の電池を使用した場合、約6時間のバルブ撮影ができます。



1 モードダイヤルをMにセットします。



2 メイン電子ダイヤルでシャッター速度を変え、bulb (バルブ)にセットします。30"の次がbulbです。



3 サブ電子ダイヤルスイッチを1にし、サブ電子ダイヤルで絞り値をセットします。

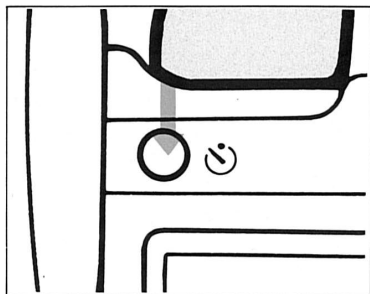
4 撮影します。

- ・ファインダー内の表示は消えます。


12. セルフタイマー撮影

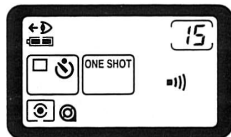
セルフタイマーを使用するとき
は、三脚などでカメラをしっかり
固定してください。

- ・セルフタイマー撮影はシャッターボタンを押してから約10秒後にシャッターが切れます。



1 セルフタイマーボタンを押
します。

- ・表示パネルに  が表示されま
す。



2 ファインダーをのぞきなが
ら構図を決め、シャッター
ボタンを1段目まで軽く押
してピントと露出を確認し
ます。

3 さらにシャッターボタンを
押します。

- ・電子音が鳴り約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる2秒前になるとセルフタイマー表示ランプが点滅します。

4 セルフタイマー撮影後、セ
ルフタイマーボタンを押し
てセルフタイマーを解除し
ます。

- ・視線入力 AF でセルフタイマー撮影するときは、ファインダーをのぞいたままシャッターを切ってください。
- ・シャッターが切れる前にセルフタイマーボタンを押すとその時点でセルフタイマーは解除されシャッターは切れません。

ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すと、ファインダーから入った光によって露出が狂うことがあります。そのようなときはアイカップを取り外して、ストラップについているアイピースカバーを接眼部に取り付けてからシャッターボタンを押してください。

V クオートデート

このカメラには2019年までのオートカレンダーが組み込まれているクオートデートがついています。撮影と同時に日付や時刻を写真に写し込むことができます。

- ・ ISO 100 未満のフィルムを使用した場合、写し込み文字がうすくなることがあります。

日付/時刻の写し込み

クオートデート表示パネルには年月日が表示されています。そのまま撮影すると写真に日付が写し込まれます。

表示切り換えボタン (MODE) を押すと写真に写し込まれる表示が次のように変わります。

〈年月日〉表示 '92 10 15 (1992年10月15日)



〈日時分〉表示 15 16:45 (15日16時45分)



〈ハイフン〉表示 -- -- -- (写し込み無し)



〈月日年〉表示 10 15 '92 (10月15日1992年)

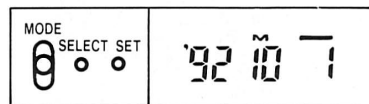


〈日月年〉表示 15 10 '92 (15日10月1992年)

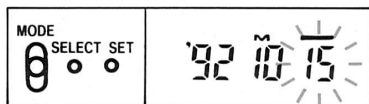
- ・ M は月を表します。
- ・ - は写し込みを確認するマークです。シャッターを切ると点滅して日付/時刻の写し込みを知らせます。
- ・ クオートデート表示パネルの表示がうすくなったらクオートデート用電池を交換してください (→57頁)。
- ・ 背景が明るいと写し込み文字が見にくくなる場合があります。

日付/時刻の修正

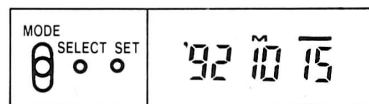
海外旅行などで日付や時刻を変更する必要があるときは次のようにします。



- 1** 表示切り換えボタン (MODE) を押して、クオーツデート表示パネルに修正する日付 (時刻) を表示します。



- 2** 修正位置選択ボタン (SELECT) を押して修正する数字を点滅させ、数値セットボタン (SET) を押して正しい数字をセットします。

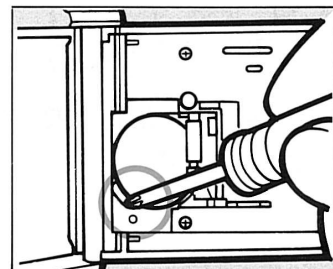
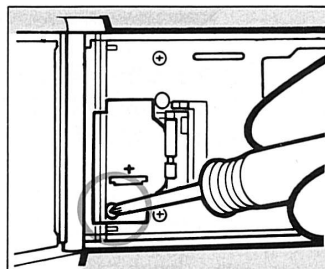


- 3** 点滅している数字がなくなるまで、修正位置選択ボタン (SELECT) を押します。点滅している数字がなくなれば、セットは完了です。

クオーツデート用電池の交換

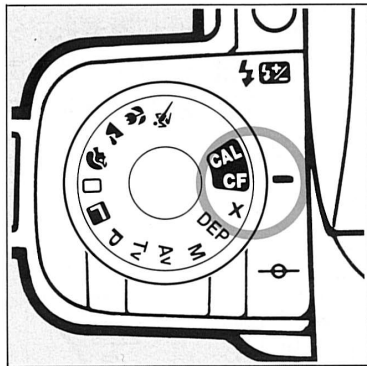
クオーツデート表示パネルの表示が薄くなったら電池を交換してください。電池の寿命は約3年です。クオーツデート用の電池はリチウム電池 CR2025、1個です。

- (1) 背蓋を開け、図に示すねじをゆるめて電池室の蓋を取り外します。
- (2) 電池を取り出します。
- (3) 新しい電池の+側を上にして入れ電池室の蓋を取り付けます。
- (4) 日付と時刻をセットしなおします。

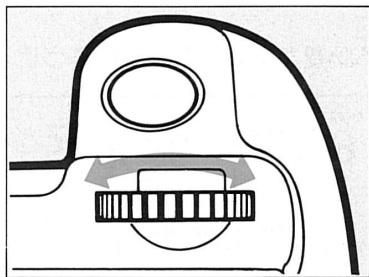


VI カスタム機能

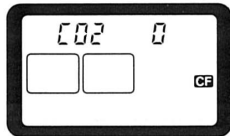
16種類のカスタム機能の中から使用目的にあった機能をセットして、より使いやすいEOSにつくり変えることができます。クリエイティブゾーンのみで機能します。



1 モードダイヤルを **CF** にセットします。

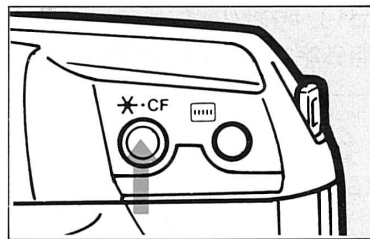


2 メイン電子ダイヤルでカスタム機能の番号を選択します。

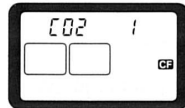


カスタム機能選択ボタンを押すことに表示パネルには「0」と「1」が交互に表示されます。

- 1：選択したカスタム機能をセットする。
- 0：選択したカスタム機能を解除する。

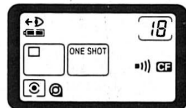


3 カスタム機能選択ボタンを押し表示パネルの数字を「1」にしてカスタム機能をセットします。



- ・選択したカスタム機能を解除するには、表示パネルの数字を「0」にします。

4 モードダイヤルのセットを戻します。



カスタム機能の内容（表示パネルの数字を「1」にセットしたとき）





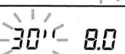
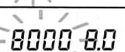
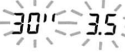

CF1	フィルム自動巻き戻しを高速にする。	フィルム自動巻き戻しの速さを通常の2倍にします。
CF2	フィルム巻き戻しの際、フィルムの先端をパトローネ内に巻き込まずに残す。	自分で現像処理するときや途中で巻き戻したフィルムを再使用するとき に便利です。 この機能をセットしたときは、背蓋を開けてシャッターを切るとシャッター 速度は1/4000秒となります。
CF3	DX コード付きフィルムの自動感度セット機能を解除する。	フィルム感度の補正や、テスト撮影などから得たフィルムの実効感度をセ ットするときに使用します。ISO 感度は手動でセットします。
CF4	AE ロックボタンに AF 作動機能を追加する。 シャッターボタンによる AF は作動しなくなります。CF 6、CF11との併用はできません。	AE ロックボタンで AE ロックとピント合わせを同時に行なうことがで きます。
CF5	ロ（一枚撮り）で撮影後、シャッターボタンを完全に 戻したときに次の測光を行なう。	シャッターボタンを完全に戻してから次の撮影ができるように変更しま す。
CF6	AE ロックボタンで AF 動作を一時停止させる。CF 4 との併用はできません。	AI SERVO AF によるスポーツ撮影などで、ピントを一時固定したいと きに使います。
CF7	オートフォーカス時に AF 補助光を投光しない。	同一の被写体を多数のカメラが撮影するような場合に、AF 補助光が他の カメラに写り込むのを防ぎます。
CF8	多重露出撮影後、多重露出を解除しない。	繰り返し多重露出撮影を行なう際に、毎回多重露出をセットする煩わしさ がなくなります。フィルム枚数を確認するときは、最後の露光時にシャッ ターボタンを押しつづけてください。
CF9	ストロボ撮影時のシャッター速度を1/200秒に固定す る。	絞り優先 AE でストロボを使用する場合、室内では低速のシャッター速度 がセットされ手振れが起きやすくなります。これを防ぐため撮影状況に関 係なくシャッター速度を1/200秒に固定します。

CF10	AF フレームのスーパーインポーズを禁止する。	被写体にピントが合ったとき、被写体を捉えた AF フレームが赤く光るのを禁止します。
CF11	AE ロックボタンを被写界深度確認ボタンに変更する。CF 4 との併用はできません。	オートフォーカスでピントと露出を決定した後、AE ロックボタンで被写界深度を確認することができます。
CF12	ミラーアップ撮影を可能にする。	セルフタイマーをセットしてシャッターボタンの2 段目を押すと、先にミラーがアップし、2秒後に露光が開始されます。
CF13	測光時のタイマー機能を解除する。 ※ DEP 撮影時は機能しません。	シャッターボタンを1段目まで押して離れた時に働く6秒タイマーの機能を解除し、消費電力を節約します。
CF14	内蔵ストロボの同調タイミングを後幕シンクロにする。	シャッターの後幕に同調させて内蔵ストロボを発光させることにより、通常のストロボ撮影とは異なった効果を得ることができます。
CF15	AF フレームを手動選択AF で任意に選択した場合のみ、AF フレームに連動したスポット測光を行なう。	フレーミングを変えないでスポット測光撮影ができます。
CF16	ストロボ自動低減コントロールを解除する。	トップライト気味の逆光で働くストロボ自動低減コントロールを解除して、強い逆光下でストロボが光量不足にならないようにします。夕陽などの強い逆光を背にした撮影で被写体が露出アンダーになるのを防ぎます。



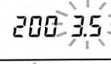
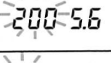
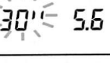
- ・ CF4と CF6をともに選択したときは CF4のみが選択されます。
- ・ CF4と CF11をともに選択したときは CF4のみが選択されます。
- ・ CF12を選択したときは太陽光に向けないでください。
(シャッター羽根が焼損するおそれがあります。)
- ・ カスタム機能はクリエイティブゾーンのみで機能します。

VII 参考資料

1. 露出警告一覧

撮影モード	警告表示 (点滅)	意味	処置
P (インテリジェントプログラム AE)	 シャッター速度30"と使用レンズの開放絞り値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
	 シャッター速度8000と使用レンズの最小絞り値	被写体が明るすぎます。	減光用の ND フィルターを使用してください。
Tv (シャッター優先 AE)	 使用レンズの開放絞り値	露出アンダーになります。	メイン電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。
	 使用レンズの最小絞り値	露出オーバーになります。	メイン電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。
Av (絞り優先 AE)	 シャッター速度30"	露出アンダーになります。	メイン電子ダイヤルで絞り値を小さくしてください。
	 シャッター速度8000	露出オーバーになります。	メイン電子ダイヤルで絞り値を大きくしてください。
DEP (深度優先 AE)	セットされた絞り値	希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) ズームレンズを使用している場合は広角側にセットしてください。
	 シャッター速度30"と使用レンズの開放絞り値	被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください (インテリジェントプログラム AE として作動します)。
	 シャッター速度8000と使用レンズの最小絞り値	被写体が明るすぎます。	減光用の ND フィルターを使用してください。

ストロボ撮影時の露出警告

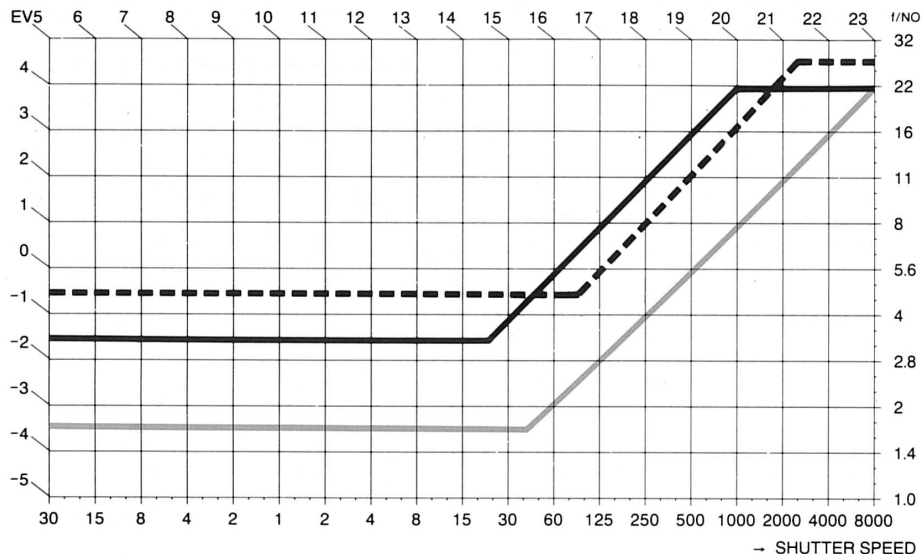
撮影モード	警告表示（点滅）	意味	処置
P（インテリジエントプログラムAE）	 日中シンクロ撮影時、シャッター速度1/200と使用レンズの最小絞り値	全体が露出オーバーになります。	ストロボを使わない撮影をおすすめします。
TV（シャッター優先AE）	 使用レンズの最小絞り値	全体が露出オーバーになります。	ストロボを使わない撮影をおすすめします。
	 使用レンズの開放絞り値	背景が露出アンダーになります。	被写体は適正露出です。
Av（絞り優先AE）	 シャッター速度1/200	全体が露出オーバーになります。	メイン電子ダイヤルで絞り値を大きくしてください。
	 シャッター速度30"	背景が露出アンダーになります。	メイン電子ダイヤルで絞り値を小さくしてください。

2. プログラム線図

EOS は使用レンズの特性（開放および最小絞り値、焦点距離など）に合わせて最適なプログラム線図を選びます。プログラム線図は使用するレン

ズによってすべて異なりますが、ここでは代表的なレンズを装着したときのプログラム線図を掲載しています。

プログラム線図



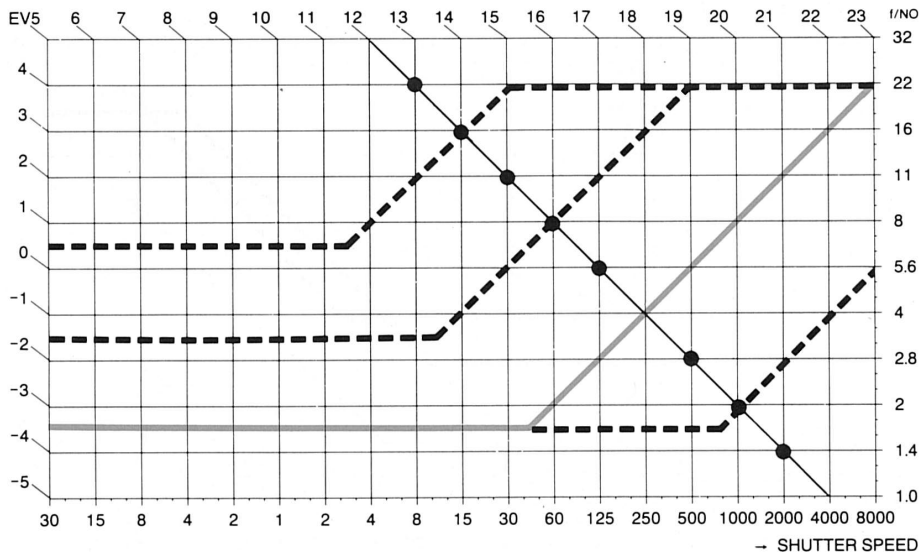
色線：EF50mm F1.8

黒実線：EF28-105mm F3.5-4.5の28mm 端

黒点線：EF28-105mm F3.5-4.5の105mm 端

プログラムシフト特性図

- ・ 図中の●はプログラム線図をシフトして得られるシャッター速度と絞りの組み合わせです。



EF50mm F1.8、EV12での例

3. 機能組合せ一覧

イメージセレクトの機能組み合わせ

撮影モード	オートフォーカス			AF フレーム選択		フィルム巻き上げ		測光方式	内蔵ストロボ	
	ONE SHOT	AI FOCUS	AI SERVO	自動選択	視線入力	一枚撮り	連続撮影	評価測光	自動発光	OFF
□ (全自動)		●		●		●		●	●	
📷 (ポートレート)	●			●	●		●	●	●	
🏞️ (風景)	●			●	●	●		●		●
🌸 (クローズアップ)	●			●	●	●		●	●	
🏊 (スポーツ)			●	●	●		●	●		●

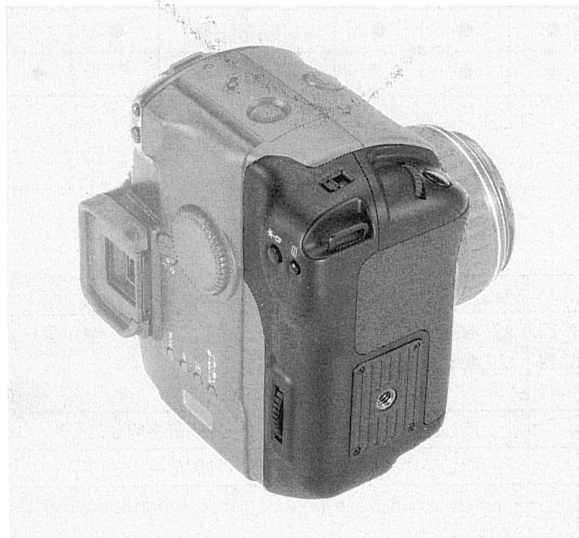
AF モードとフィルム巻き上げ

フィルム巻き上げ	ONE SHOT AF	AI SERVO AF
□ (一枚撮り)	AF 完了まではレリーズ不可、AF 完了と同時に AF ロック (ピント位置ロック) および AE ロック (撮影前に露出の値を記憶)	AF は被写体の動きに合わせて追従、露出はシャッターが切れる瞬間に決定
📷 (連続撮影)	上と同じ条件で連続撮影となる (秒間最高約 3 コマ)	上と同じ条件で連続撮影となる (秒間最高約 3 コマ)
📷H (高速連続撮影)	上と同じ条件で連続撮影となる (秒間最高約 5 コマ)	上と同じ条件で連続撮影となる (秒間最高約 3 コマ)

VIII 主なアクセサリー

縦位置グリップ (VG10)

シャッターボタン、AE ロックボタン、縦位置用メイン電子ダイヤル、AF フレーム選択ボタン、ハンドストラップ (別売) を備えた縦位置グリップは、縦位置撮影での操作性を高める縦位置撮影専用グリップです。

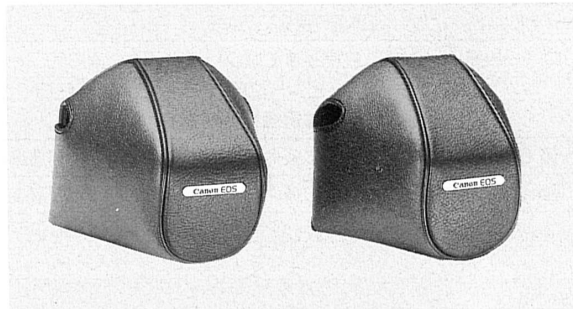


カメラケース

カメラを保護するためのカメラケースとして、レンズを付けたまま収納することができる以下の2種類があります。

セミハードケースL(EH7-L): EF35-80 F4.5-5.6U、EF35-105mm F4.5-5.6U ズームレンズを付けたまま収納することができます。

セミハードケースLL(EH7-LL): EF28-105mm F3.5-4.5U、EF28-80mm F3.5-5.6U、EF35-135mm F4-5.6Uズームレンズを付けたまま収納することができます。

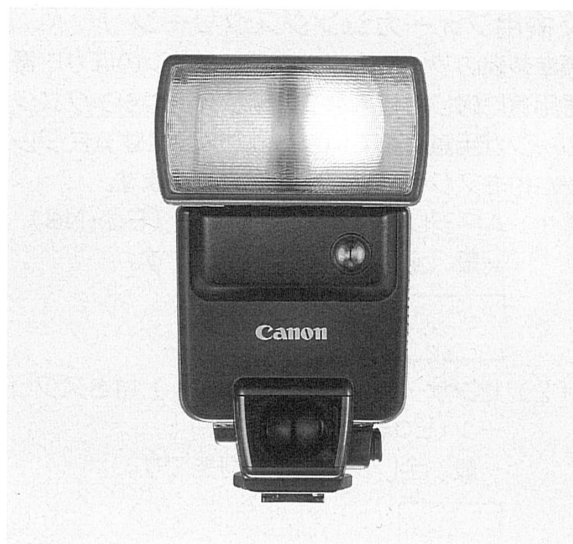


スピードライト430EZ

キャノンスピードライト430EZはクリップオンタイプの大光量ズームストロボです。A-TTL調光を採用しているため撮影モードに合わせた暗黒中、日中ストロボ撮影が簡単にできます。カメラと関係なくストロボの調光レベルを変えて自然な明暗の写真表現ができる自動露出レベル調光撮影、1秒間に10回まで連続発光できるマルチ発光撮影、流動感を表現する後幕シンクロナイズド撮影、さらにスローシンクロナイズド撮影やバウンス撮影など高度な撮影ができます。内蔵電源だけでなく3種類のバッテリーに対応する外部電源が用意されているなどキャノンスピードライト430EZは本格派のためのストロボです。

アングルファインダー B

アングルファインダー B を取り付けると学術写真の撮影や接写などに便利です。アングルファインダー B を取り付けするには専用アダプター（別売:アングルファインダーアダプターEd）が必要です。



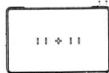
交換用フォーカシングスクリーン

標準装備のフォーカシングスクリーンのほかに撮影用途に応じた最適な交換用フォーカシングスクリーンが用意されています。カメラには AF フレーム付きスクリーンが装備されています。

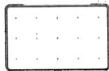
- (1) AF フレーム付きスクリーン (Ed-Ne)
一般、全レンズに使用可能です。



- (2) センサーマーク (| |+ | |) 付きスクリーン (Ed-O)
一般、全レンズに使用可能です。

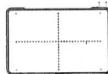


- (3) 方眼マットスクリーン (Ed-D)
一般、全レンズに使用可能です。方眼線があるため建築写真撮影や複写に便利です。

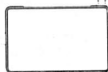


- (4) 目盛り入りマットスクリーン (Ed-H)
全レンズに使用可能です。目盛り線がある

ため撮影倍率や構図決定に有効です。接写、拡大撮影に便利です。



- (5) 全面マットスクリーン (Ed-C)
一般、全レンズに使用可能です。



- (6) パノラマライン入りマットスクリーン (Ed-P)
一般、全レンズに使用可能です。パノラマ撮影時の撮影範囲を示すパノラマラインが入っています。



フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられています。絶対に手で触れないでください。交換の際はフォーカシングスクリーン付属の専用チェンジャーをお使いください。フォーカシングスクリーンの交換はレンズマウント部から行ないませんが、詳しくはフォーカシングスクリーンの取り扱い説明書をお読みください。

視度補正レンズ

視度補正レンズ E を取り付ければ、近視、遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度は-1ジオプターですが、交換用視度補正レンズとして10種類が用意されています。実際にカメラに取り付けてファインダーを覗いた上でお求めください。視度補正レンズの取り付けには専用アダプター（別売：ラバーフレームEd）が必要です。

- ・ 視度補正レンズと眼鏡を併用すると視線入力できませんが、裸眼であれば視線入力できます。

リモートスイッチ60T3

カメラの3端子リモコンソケットに取り付けて使用するリモコンスイッチで、リモートスイッチのボタンでカメラのシャッターを切ることができます。接写や超望遠レンズでの撮影時に起きやすい手振れ防止に役立ちます。エクステンションコード1000T3（長さ10m・別売）を併用すると遠隔撮影もできます。

アイカップ（Ed-E）

アイカップEd-Eをカメラに取り付けると、太陽光などの強い光が撮影者の目に入るのを防ぎ、よりファインダーを見やすくし、視線入力の精度を高めることができます。



取り扱い上のご注意

■お手入れの方法

どんなに優れたカメラでも適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮できません。特に水分や砂がカメラについたままにならないよう、日常のお手入れには十分気をつけてください。

手入れ用具：ブローブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、高分子クロスなど

1) レンズとファインダー接眼部

ブローブラシで砂やほこりを吹き払い、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭き取ってください。

2) カメラの反射ミラー、フォーカシングスクリーン

ブローブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、最寄りのキャノンサービスセンターにお持ちください。

3) フィルム室内

フィルムカスなどが付きやすいので、常にゴミをブローブラシで吹き払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムを傷つける原因となります。

4) レール面や圧着板

クリーナー液とクリーニングペーパーを使用して拭いてください。

- ・シャッター幕には絶対に手を触れないようご注意ください。
- ・海辺で使用した後は、カメラに塩分が付着していますので特によく拭いてください。
- ・エアポンプタイプのブローのご使用はおすすめできません。

■保管の方法

カメラケースを外し、湿気やほこりのないところに保管してください。また、カメラは長期間使用しないでおくとカビや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所は避けてください。

- 1) 車のトランクやリヤウィンドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるため避けてください。
- 2) 実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。

同様にタンスの中なども避けてください。
長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。
長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

■その他の注意事項

1) 表示パネルについて

カメラの表示パネルは液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用で5年程度経過すると表示が薄くなり読みにくくなる場合があります。その場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください（有料）。
なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60°Cぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

2) 空の電池マークの点滅について

電池容量が極端に低下した場合や、カメラが誤動作・故障した場合は、表示パネル上に空の電池マ

ークが点滅することがあります。以下の操作を行なってください。

(1) 電池を入れ直して、電池容量を確認してください。もし電池容量が低下していれば電池を交換してください。

(2) 一度シャッターを切ります。

以上の操作を行って、空の電池マークの点滅が消えれば、正常に撮影を続けることができます。しかし、この操作を何度繰り返しても空の電池マークの点滅が消えないときはカメラの故障です。最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。

3) リチウム電池について

カメラはリチウム電池パック(2CR5、1個)を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池電圧をチェックしてください。

(1) 電池を交換したとき

(2) 長期間カメラを使用しなかったとき

(3) シャッターが切れなくなったとき

(4) 寒冷地で撮影するとき

(5) その他、大切な写真を撮るときなど

- ・電池をカメラに入れるときは、電池接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- ・電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- ・この電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れ保管しながら交互に使用することをお勧めします。

4) 電圧の低下とカメラの作動について

表示パネルに電池マークが点滅しても、シャッターが切れれば写真は適正露出になります。ただし、電池容量が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。また、巻き上げ/巻き戻し途中でカメラが停止してしまったときは表示パネル上でフィルムマークが点滅して警告します。巻き戻しは新品電池に交換した後、フィルム巻き戻しボタンを押せば継続して作動します。

5) 電子接点について

レンズを外したときは、電子接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置いてください。

6) 汎用ストロボを使用するとき

- (1) 汎用小型ストロボは1/200秒以下で同調します。
 - (2) スタジオ用大型ストロボは1/200秒、1/125秒、1/90秒、1/60秒で同調します。
- ・汎用ストロボをご使用の場合は正しく同調するかどうかあらかじめ確認してからご使用ください。

7) 水にぬれたとき

このカメラは防水構造になっていませんので雨天や水中では使用できません。万一水にぬれてしまったときは、早目に最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴がついたときは乾いたきれいな布でよく拭きとってください。

- ・カメラには高電圧回路が内蔵されています。危険ですので絶対に自分で分解しないでください。

主要性能表

型式：モータードライブ・ストロボ・オートアートの内蔵35mm フォーカルプレーシャッター AF/AE 一眼レフカメラ

画面サイズ：24×36mm

使用レンズ：EFレンズ群（開放測光にて使用）

レンズマウント：キャノン EF マウント（完全電子制御方式）

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル式

視野率：上下92%、左右94%

倍率：0.73倍（50mmレンズ付き無限遠状態で）

標準視度：-1ジオプター（アイポイント20mm）

フォーカシングスクリーン：交換式、AF フレーム付き全面マットスクリーン

ミラー：クイックリターン式ハーフミラー

測光方式：受光素子に16分割SPC使用のTTL開放測光（絞り込み測光は不可）。

①評価測光

②スポット測光（測光範囲はファインダー画面の約3.5%）

③中央部重点平均測光

撮影モード：①インテリジェントプログラムAE（シフト可）

②シャッター優先AE

③絞り優先AE

④深度優先AE（シフト可）

⑤全自動（シフト不可）

⑥イメージセレクト機能（4種内蔵）

⑦ストロボAE（内蔵ストロボおよび専用スピード

ライトを使用してA-TTLおよびTTLプログラムフラッシュAE）

⑧シンクロ接点使用ストロボ用X（1/60～1/200）

⑨マニュアル

手振れ警告：全自動、イメージセレクトモード時に作動。

自動的にセットされたシャッター速度が使用レンズの「1/焦点距離」マイナス0～0.5段以下となった場合、2Hzの電子音で警告

測光範囲：EV-0～20（常温常湿）50mmF1.4レンズ使用換算、ISO 100）

使用フィルム感度：ISO 6～6400、DXコード自動対応

露出補正：1/2段ずつ±2段

オートブラケティング：1/2段ずつ±2段。適正、露出アンダーおよび露出オーバーの順で連写および単写多重露出：9回まで予約可能。

AF制御方式：TTL-CT-SIR方式

①ONE SHOT AF/測距完了にて停止、測距完了後にリリース可能

②AI SERVO AF/被写体の動きに追従、測距完了後にリリース可能、動体予測機能装備

③マニュアル/フォーカスモードスイッチをMにし、手動フォーカスリングを回すことにより可能

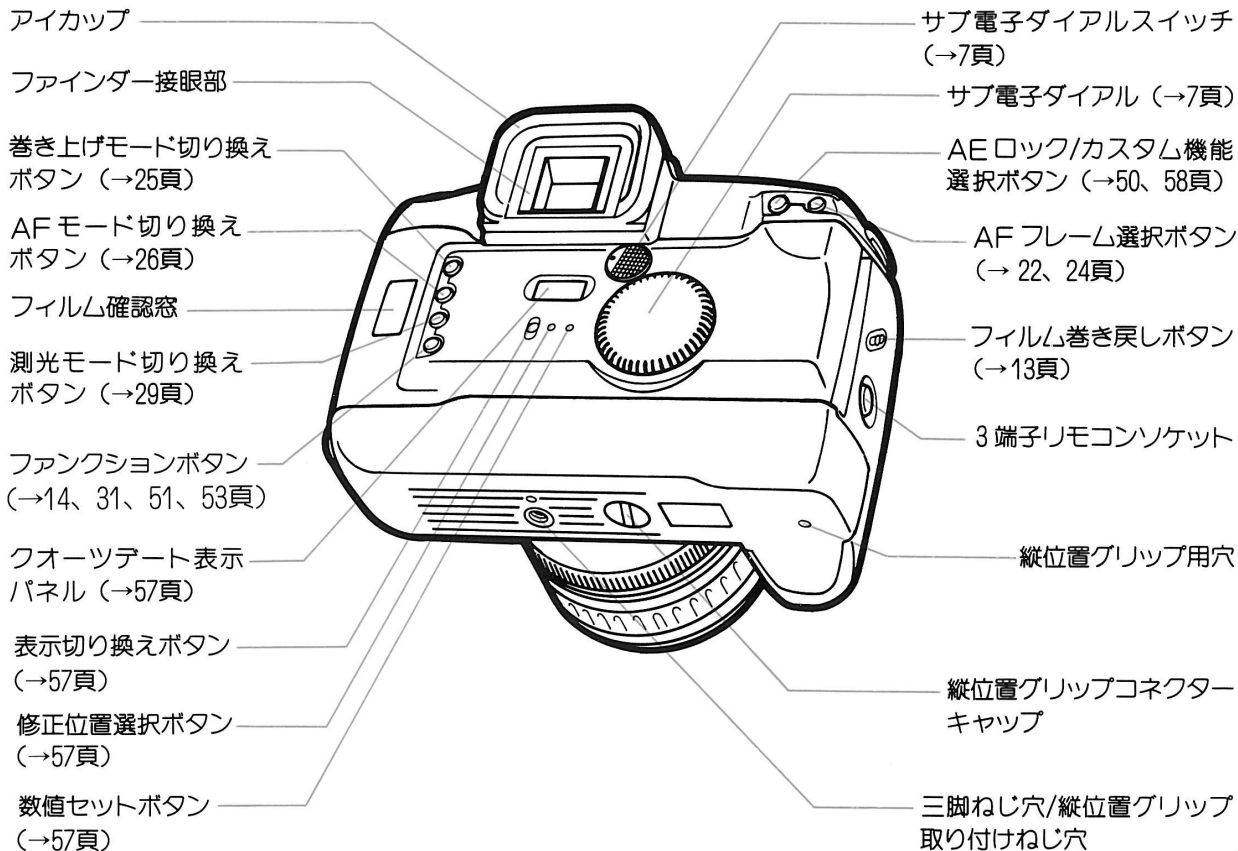
AF測距輝度範囲：EV0～18（ISO 100）

AFフレーム切り換え：

①カメラによる自動選択または5つのAFフレームから任意の1つを選択

②視線入力によるAFフレーム選択

各部の名称



AF 補助光：被写体条件に応じて5つのAFフレームに対応した内蔵AF補助光を自動的に投光

シャッター：縦走リフォーカス式全速電子制御シャッター

シャッター速度：1/8000～30秒およびバルブ、X接点は1/60～1/200秒

セルフタイマー：電子制御式（時限約10秒）

フィルム装てん：自動、フィルムセット後背蓋を閉じると、1枚目まで自動空送りし停止

巻き上げ：専用小型モーターによる自動巻き上げ

①一枚撮り

②連続撮影（秒間最高約3コマ）

③高速連続撮影（秒間最高約5コマ）

巻き戻し：フィルム終了と同時に専用小型モーターにより自動巻き戻し

内蔵ストロボ：ペンタ部内蔵リトラクタブル式 TTL 自動調光ストロボ、並列制御式

①ガイドナンバー/13 (28mm) ～17 (80mm 以上) (ISO 100・m)

②充電時間/約2秒

③照射角/使用レンズの焦点距離に応じて28mm、50mm、80mm 以上に対応してオートズーム

④発光条件/全自動、イメージセレクトの一部のプログラムで逆光時および低輝度時に自動発光

調光絞り値：①各プログラム AE/TTL プログラムにより調光絞り値を自動セット

② Av、マニュアル、X/任意の絞り値を手動セット

③ Tv/手動セットしたシャッター速度に対し、周辺輝度に応じて絞り値を自動セット

同調シャッター速度：

①各プログラム AE/1/60～1/200秒に自動セット

②Av/セットした絞り値に対し周辺輝度に応じて30～1/200秒自動セット

③Tv、マニュアル/1/200秒以下の任意のシャッター速度を手動セット

④X/1/200、1/125、1/90、1/60秒の任意のシャッター速度を手動セット

フラッシュ接点：X接点/アクセサリシュー部直結接点とシンク口接点

グリップ：縦位置グリップ（別売）の取り付け可

表示パネル：AFモード、フィルム巻き上げモード、シャッター速度、絞り値、フィルム感度、電池チェック、露出補正などの表示を必要に応じて行う

カスタム機能：16種内蔵、選択可

電源：リチウム電池/パック (2CR5) 1個

バッテリーチェック：モードダイヤル L 位置解除で自動バッテリーチェック、表示パネル上に4段階表示

大きさ：154 (W)×120.5 (H)×74.2 (D) mm

重量：675g (ボディのみ)

日付/時刻写し込み機能

方式：液晶表示式、クォーツデジタル時計内蔵オートカレンダー（西暦2019年まで、うるう年自動修正）

写し込みデータ：①年・月・日、②日・時・分、③写し込み無し、④月・日・年、⑤日・月・年

写し込み色：オレンジ色

時計機構：常温20°C下で月差±90秒以下

電源：リチウム電池 CR2025、1個寿命約3年

EOS 5／超望遠レンズ／エクステンダー の組み合わせにてご使用の際に

EOS 5 と下記レンズ／エクステンダーとを組み合わせでカラーポジにて使用する場合、下表にしたがい露出補正を行って下さい。

なおネガカラー・白黒フィルムご使用の場合は、フィルムラチュードが広い
ため露出補正をかけなくても実用上問題はありません。

	測光モード	EF300 F4L	EF400 F5.6L	EF500 F4.5L	EF600 F4L
EXT EF1.4X	評価／平均	—	-0.5	-0.5	-0.5
	スポット	—	-0.5	—	—
EXT EF2.0	評価／平均	-0.5	-1.0	-1.0	-1.0
	スポット	-0.5	-1.0	-0.5	-0.5

When using the EOS 5/A2/A2E with Super Telephoto Lens in Conjunction with Extender

When using the EOS 5/A2/A2E with the following list of Super Telephoto Lens and Extender combinations for color positive film, please make the exposure compensations indicated below.

As the film latitude of negative color and black and white film is much wider, no exposure compensation is necessary.

	Light metering	EF300 f4L	EF400 f5.6L	EF500 f4.5L	EF600 f4L
EXT EF1.4X	Evaluative metering / Center - weighted average metering	—	-0.5	-0.5	-0.5
	Spot metering	—	-0.5	—	—
EXT EF2.0	Evaluative metering / Center - weighted average metering	-0.5	-1.0	-1.0	-1.0
	Spot metering	-0.5	-1.0	-0.5	-0.5

Utilisation de l'appareil EOS 5/A2/A2E avec un téléobjectif combiné à un multiplicateur

Quand on utilise l'appareil EOS 5/A2/A2E avec les combinaisons téléobjectif multiplicateur et un film positif couleur, prière de faire les corrections d'expositions indiquées ci-dessous.

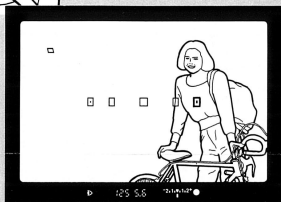
Dans le cas des films négatifs couleur et noir et blanc, vu que la latitude est beaucoup plus large, aucune correction d'exposition n'est nécessaire.

	Mesure de la lumière	EF300 f4L	EF400 f5,6L	EF500 f4,5L	EF600 f4L
EXT EF1,4X	Mesure évaluative / Mesure intégrale à prédominance centrale	—	-0,5	-0,5	-0,5
	Mesure spot	—	-0,5	—	—
EXT EF2X	Mesure évaluative / Mesure intégrale à prédominance centrale	-0,5	-1,0	-1,0	-1,0
	Mesure spot	-0,5	-1,0	-0,5	-0,5

EOS5視線入力AF早わかり

■視線入力AF

ファインダー内にある5つのAFフレームのうち、眼がどれを見ているのかをカメラが瞬時に判断し、そこにある被写体にピントを合わせる機能です。構図を優先した撮影が手軽に楽しめます。



■視線の登録(キャリブレーション)とは

人によって眼の特性にはわずかな違いがあります。正確な視線の検知を可能とするために、撮影者の眼の特性をデータとしてカメラにセットします。

●視線入力でピント合わせをしてみよう

1. まず、キャリブレーションを行いません。

①モードダイヤルを **AL** にセットします。



ボタンを押してロック解除

②CAL-1~5のいずれかをセットします。



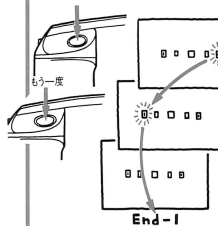
あなたのキャリブレーション番号です。

★最初は点滅している番号を選びます。

点滅している番号がない場合。

③ファインダーをのぞいてください。

(目を離さずに一連の動作を行いません)



・右側の赤の点滅を見ながらシャッターボタンを押します。

・1~2秒待つと「ピピッ」と音がします。

・一度シャッターボタンから指を離してください。

・左側の赤の点滅を見ながら、再度シャッターボタンを押します。

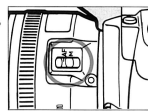
・再び「ピピッ」と音が出てファインダー内表示が「End-1」になれば、キャリブレーションは終了です。

★「ピピピピ…」と断続音になったときはモードダイヤルを **AL** から外し、再度 **AL** に戻して③からはじめてください。

2. では、ポートレートモードにしてみましょう。



視線入力AFが作動します。



*レンズはAFに

★視線入力は **ロモード**、**DEPモード**以外でご利用いただけます。

3. 被写体を見てシャッターボタンを押します。

ファインダー内の5つのAFフレームのうち、見たところピントが合うオートフォーカスです。

目は環境に敏感です。視線入力がかましくなくなったりときには、もう一度キャリブレーションを行なってください。カメラの学習機能が働き視線入力精度がアップします。



・AEロックボタンとAFフレーム選択ボタンを同時に押してください。

目の基礎データを正確に入力するために

★屋外では太陽に背を向けて。

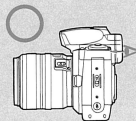
★ファインダー内の四隅が見えますか？

★目をアイコンに近づけましょう。

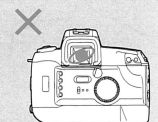
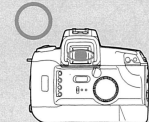
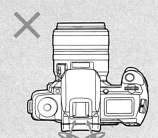
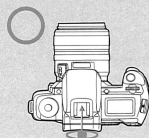
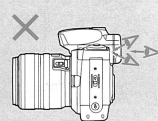


屋外では、目に直接太陽光線が当たらないようにしてキャリブレーションしてください。

よい例



悪い例

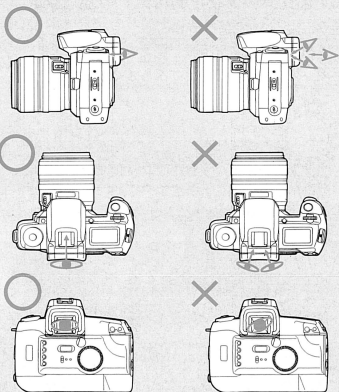


視線入力ワンポイントガイド

キャリブレーションがうまくいかないとき、

または希望するAFフレームがうまく選択されないときは、以下の点をご確認ください。

- ◆ファインダー内の四隅が見えるよう、ファインダーの真ん中に目を位置させていますか？
- ◆ファインダーを上、下、左あるいは右斜め方向からのぞくことなく、目とファインダーが正対するように構えていますか？
- ◆目に対してカメラを前後左右上下方向に斜めに構えていませんか？

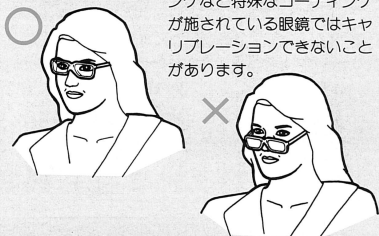


- ◆目に直接太陽光が当たっていませんか？
- 屋外では、目に直接太陽光線が当たらないようにしてキャリブレーションしてください。



- ◆カメラが動かないようにしっかりと保持していますか？
- ◆髪の毛が目にかかっていますか？
- ◆キャリブレーション操作時に目を細めたり、瞬きしたり、視線を動かしたりしていませんか？
- ◆AFフレームを見てからシャッターボタンを押していますか？
- ◆撮影時と同じ目の状態(眼鏡・コンタクトレンズの着用など)でキャリブレーションしていますか？

- ◆眼鏡がずれて鼻眼鏡になっていませんか？
- その他ミラーレンズサングラスやマルチコーティングなど特殊なコーティングが施されている眼鏡ではキャリブレーションできないことがあります。



- ◆カメラの使用者が複数のとき、使用者毎にキャリブレーション番号を変えていますか？

キャリブレーション登録の消去方法



・AEロックボタンとAFフレーム選択ボタンを同時に押してください。

- 複数の人がキャリブレーションを行なうと視線入力がか誤作動を起こします。そのようなときは登録されたキャリブレーションを消去して、改めてキャリブレーションを行ってください。

- ◆室内から明るい屋外に出るなど、撮影時の周囲の明るさが変わっていませんか？

○同じキャリブレーション番号で再度キャリブレーションを行なってください。環境の変化に敏感な人の目の状態をカメラが学習し、視線入力を使い勝手は向上します。より快適な視線入力を行なうため、明るさの異なる所でキャリブレーションを行なうことをおすすめします。

